

史料保存利用施設の国際環境

——史料館Ⅱ文書館学序論のための覚書——

安 澤 秀 一

目 次

はじめに

- 一 ユネスコRAMPの事業活動
- 二 スリランカの史料館Ⅱ文書館
- 三 インド国立文書館における史料の保存科学
- 四 史料館Ⅱ文書館建築の問題点
- 五 視聴覚史料館 — ソ連とイギリス —
- 六 電算機と史料館Ⅱ文書館
- 七 史料保存利用施設の将来的展望
- 八 おわりに — 史料館Ⅱ文書館学と日本古文書学 —
 - 付録Ⅰ ユネスコPGI・RAMP関係文献目録抄
 - 付録Ⅱ 史料館Ⅱ文書館学基本文献目録 (F・エヴァンズ 氏作成—一九八三)

はじめに

欧米諸国のみならず、アジア・アフリカ諸国にも、各種各様のレベルで史料保存利用施設が設置されており、その施設で働くアーキヴィストのための協会が存在し、国内的にも国際的にも連絡交流の実をあげて、知的専門職としての資質向上や業務水準の調整につくしている。⁽¹⁾ 成熟国も開発途上国もおしなべて、史料館Ⅱ文書館国際評議会

I C Aを通じて国際的な情報連絡を盛んに⁽²⁾おこなっている。またユネスコもその創立以来、史料館Ⅱ文書館制度の発展に力をつくしているのである。

わが国においても歴史資料保存利用機関連絡協議会 Liaison of Institution for Preservation and Service to Historical Resources ⁽³⁾、企業史料協議会 Business Archives Association ⁽⁴⁾といった団体がそれぞれに活潑に活動している。前者は主として地方自治体における史料館Ⅱ文書館施設を主体とし、後者は企業のそれを主体として、それぞれ構成員の相互連絡と業務遂行上の知識や情報を交換したり研究する組織である。

戦後、近世史・地方史研究が盛んになるにつれて、個々の歴史研究者が史料調査と称して私有の近世史料を利用することが多く行われた。大抵の場合、自身の研究利用を直接の目的とし、もしくは地方自治体の歴史編纂のためであった。特定の研究テーマに必要な史料を抜きだし、ひきだすための史料目録を作成するものの、史料群としての体系的把握は短期間の調査日程の故に積極的に行われることなく、従って充分な整理にもとずく検索手段を欠いたまま、保存管理については所蔵者の善意に委ねることが多かったといえよう。とくに整理管理については、すでに欧米諸国で確立していた「出所原則」および組織の構造―機能を基準とする「原秩序把握」という考え方を知ることなく、図書館的方法の援用がまま見られた。日本で史料館Ⅱ文書館における整理管理の標準化をいう時、少なからぬ人が直ちに十進法分類表の作成を目指すのは、「出所原則」と「原秩序把握」を知らぬままに、図書館的管理法をストレートに受入れるからであって、これは今もなお一部には根強く残っているようである。十進法分類による図書管理法を確立していたあのアメリカでさえも、一九四〇年代には史料整理の方法としての援用を重大な誤りであるとする考え方が一般化していたにもかかわらずである。⁽⁵⁾このことは第二次世界大戦による学問情報の不足によるというよりは、明治以来の史料保存利用施設に対する学問的無関心によるものと見たほうがよいであろう。

石坂昭雄教授が最近の論文で指摘された通り、「一八〇年もの空白を取りもどすことはけっして容易ではない」のである。

原史料を保存し利用に供する施設としての史料館Ⅱ文書館運営に必要な知識の全体を総合的に検討して、図書館の方法とは異なる史料館Ⅱ文書館独自の方法を標準化するというような考え方は、なお充分に定着しているとはいえないように思える。それは日本の近代化の過程において、公共の史料保存利用施設そのものの存在意義と役割について、あまりに社会的にも学問的にも共通理解が欠如していたということである。史料保存利用施設というものが利用者にとっては直接的な学問研究のためのサーヴィスをうける場であっても、そこで働く事に対しては、実務的な史料検索手段作成というサーヴィス業務を第一義的責務とする施設であるという性質の故に、他人の為に働くサーヴィスという仕事への根深い軽視と忌避もあつたのことと思われる。

あまつさえ、研究の手段としての「文書」を扱うには崩し字が読めさえすれば充分であるというような錯覚が行し、日本の「文書」を整理するのにいまさら外国から学ぶことなど何もないといったショーヴィズムもまた見られるなど、「文書」の「整理管理・保存管理」についての学問的検討への関心はなお稀薄のように思える。崩し字が読めることは必要条件であつても十分条件ではないのである。

およそ歴史的アプローチに立脚する学問が原史料にもとずいて行われようとする時、その基盤となるのが第一に原史料を保存し利用に提供する史料館Ⅱ文書館の存在であるということは、欧米諸国のみならず、発展途上国においてもむしろ当然の事柄なのである。^{?)} D・S・ランデスとC・テイリイを編者として一九七一年に刊行された「社会科学としての歴史学」History as Social Scienceは、編者のほかにH・F・クライン、S・ダイアモンド、S・F・ヘイズ、T・C・スミスを加えた行動・社会科学調査、歴史学部門委員会による、歴史学部におけるカリキュ

ラム改正に関する報告書である。それは数量的方法の導入を積極的に勧奨するなどのなかで、歴史研究の物的基盤としての史料館Ⅱ文書館の施設拡充を論じている。この人たちは丁度そのころ盛んになった「新しい経済史」の担い手たちであり、数量経済史と原史料利用の密接な関係を反映するものであった。あるいはR・W・フォーゲル／S・I・エンガーマン「苦難の時―アメリカ黒人奴隷制の経済学―」⁽⁹⁾は、伝統的な歴史研究においてそれまで余り利用されていなかった国立・州立のあるいは大学の史料館Ⅱ文書館や、州の歴史協会などが所蔵する国勢調査原表や農場経営史料あるいは家計簿などの精力的収集と大量データの統計分析にもとづく事実発見の研究書である。欧米の歴史家は国・州・市その他様々な公共施設において公開されている史料情報を自由に利用できる環境をもっており、新しい事実発見にもとづく歴史研究が進められているのである。

イギリスでは一八六九年に創立された王立史料委員会 Royal Commission of Manuscript の下に、一九四五年に国立史料登録局 National Register of Archives が設置され、政府・民間を問わず、原史料の所在情報について全国から報告が集まるようになって⁽¹⁰⁾いる。それはあたかも出版物が著作権書籍寄贈義務にもとずいて五大図書館（大英図書館・オックスフォード大学・ケンブリッジ大学・ウエイルズ国立図書館・スコットランド国立図書館）に献本されるのと同じような制度であり、全国的に史料目録が収集され、公開されている。国籍の内外を問わず、研究者はロンドンにある登録局において史料目録を検索し、史料閲覧の諸条件を知ることが出来る。

わが国における文書の存在量は、特に近世史料のそれは、恐らく世界の他の諸国のうちでもずばぬけて多いと思われるが、上に見た例に比べて、学問的基盤整備の立遅れの甚だしさが目につくのである。このことは近世史料に限られることではなく、近代・現代史料についても積極的な方策が必要とされることを意味しているし、さらに現在作成されている現用記録についても、将来における史料館Ⅱ文書館での選択的保存にむけて、円滑な移管を制度

化しなければならぬことを含んでいるのである。

本稿においては、史料保存利用施設つまり史料館Ⅱ文書館が日本以外の世界各国においてどのように位置付けられ、どのように運営されているのか、どのような問題を抱えているのか、といった事柄について、いくつかの事例を紹介してみたい。時間的余裕のないままに取りあえずの紹介に終らざるを得ないが、本稿の副題に「史料館Ⅱ文書館学序論のための覚書」と付したのは次の理由による。

筆者は昭和五八・五九年度の国立史料館主催「史料取扱講習会」において、「史料館Ⅱ文書館学序論」および「史料の整理管理Ⅱ（カードおよび冊子体目録編成法）」を担当した。その講義は次にかかげる綱目に従って行っている（五九年補訂）。

史料館Ⅱ文書館学序論

一、史料館Ⅱ文書館学の研究対象

- 1 生産された記録と保存される文書
 - 2 永久保存価値の評価（法律的・行政的・歴史的）をうける「史料」の選別
 - 3 史料保存利用施設の組織構造・建築空間・備品・職員
- 二、史料館Ⅱ文書館の過去・現在・未来

1 欧米諸国の史料館Ⅱ文書館

2 アフリカ・アジア諸国の史料館Ⅱ文書館

史料保存利用施設の国際環境（安澤）

3 日本の史料館Ⅱ文書館

三、史料館Ⅱ文書館学の方法と課題

1 歴史補助学と史料館Ⅱ文書館学体系化の関係

2 学理と応用

3 史料館Ⅱ文書館学と情報科学・管理科学・保存科学

付録 史料館Ⅱ文書館学体系化にかんする安澤私家(昭五十三年七月報告)

1 伝来・移管・現蔵・整理状態等の情報を扱う史料所在論

2 用紙(筆記媒体)の寸法・紙質や、巻枚物か帳面仕立か、墨色・筆跡・書体・書風・印鑑・花押・署名などを扱う史料形態論

3 文体・範例・書式・用語・差出・宛書・日付などを扱う文形様式論

4 文書種類にかんする発生論的系統論

5 行政機構の管理組織とその内的関連に焦点をおく史料構造Ⅱ機能論

6 件名主題目録(カード・冊子体)・索引・年表作成などを扱う史料整理論

7 補修・殺虫・酸性化素材の中性化や、整理済み史料を収納する書庫・書架など保存環境維持を含む史料保存論

8 閲覧・複写・複製・翻刻・史料紹介および電算機応用による情報検索を含めて扱う史料情報サーヴィス論

9 史料保存のための価値判断を扱う史料評価論

10 比較古代・中世・近世・近代史料論

史料整理管理Ⅱ（カードおよび冊子体目録編成法）

一、史料保存利用施設（史料館Ⅱ文書館）の役割Ⅱ社会の文化的記憶の源泉・地域社会の存在証明

1 類似施設との差異

a 図書館資料における書誌的事項の自給自足性と文書館史料における書誌的事項の欠如

b 図書館における分類枠組押込と文書館における文書群内在の脈絡把握による類別基準発見

c 文書館史料の一次性（原記録）と文献資料解析センターにおける2次的資料からの3次的データ作成

2 公開—利用者の閲覧請求と正確・迅速な出納手段としての目録・索引・年表

3 閉架書庫と書架配置—出所別（家別）配架の優先、分類配架の不適合

二、整理対象の基本性格Ⅱ整理基準発見の指標

1 史料作成の原点—組織と管理（行政体・企業・諸団体・個人）における情報蓄積

a 意志決定とその遂行（目標・立案・計画・執行・結果・反応）の記録

b 業務遂行過程での情報の受入・送出し・伝達の記録〔総務・人事・財務・現業〕

c 記録媒体の変遷—粘土板・紙・金石・木板・フィルム・レコード盤・磁気テープ・磁気ディスク・光ディスク

イスク

2 職制機構・部局編成—系列的／横断的Ⅱ階層性

業務活動に係わる意思の伝達と経路のネットワークシステムおよび一件書類括り（起案・上申・決裁・指示・復命・連絡）

3 成立・存続(分化・統合・改名・廃止・休止)する機構・部局における業務活動の連続性(時系列データ)

三、目録編成の基準Ⅱ文書群範囲の確定

1 類別(Sorting)の第一基準Ⅱ出所原則 Provenance(伝来)

文書群内部における原秩序 Original Order(もしくは現状)、復元の可能性と検証

2 件名主題および内容事項

a 件名カードの書誌的記述、主題複合の取扱い、内容摘録の記述

b 文書群内容の類別の副次的基準の設定準備、その名辞の選択・採用における史料優先主義

c 書庫配置・書架排列と検索番号記入の同定

3 出所別(家別)史料群、それぞれの個別特有構成の的確な表現としての副次的類別設定にもとづく構造Ⅱ機能把握的目録編成、あらかじめ設定された分類枠組の不適合

右に掲げた講義のためのノートという役割を本稿にもたせたいという意図もある。ともあれ日本における史料保存利用施設つまり史料館Ⅱ文書館制度を支える「史料館Ⅱ文書館学」を確立する為に、諸外国における考え方を討議する素材の一助になれば幸いである。

なお蛇足ながら本稿における Archives【文書】【文書館】は、Records(記録)Ⅱ現用公文書とその保管場所を意味する「公文書」こうぶんしょ・「公文書館」こうぶんしょかん、と区別するため、「非現用」、ないし歴史的意味合いを表現する読み方としての「もんじょ」「もんじょかん」と読んで頂ければ有難い。

注

- (1) Society of Archivists の名称を持つ専門職団体が各国において活動している。
- (2) International Council on Archives ICA は一九五〇年に第一回の国際会議をハリールで開催して以来、四年毎に各国持ち回りで国際会議を開催している。一九八四年は西ドイツのボンで連邦図書館の責任で開催される。
- (3) 歴史資料保存利用機関協議会は昭和四九年(一九七四)三月に結成大会を開催し、その後毎年の総会とブック毎の研究会などを行っている。活動状況については会報をみられたい。
- (4) 企業史料協議会は昭和五六年(一九八一)一月に創立総会を開き、その後活潑な研究会活動を行っている。活動状況についてはニューズレターをみられたい。また中村頼道「企業史料の収集保存と記録管理」地方研究三四—二昭和五九を参照されたい。
- (5) R.L. Clark, Jr. (ed.) *Archive-Library Relations* R.R. Bowker Comp. 1972 とくく三九ページ
- (6) 石坂昭雄「ヨーロッパ経済史家から見た地方『文書館』問題」地方史研究三四—二昭和五九、なお前掲中村論文や石坂論文所収の「地方史研究」は「地方史研究と文書館」特集号であり、一一本の論文が掲載されている。
- (7) 安澤秀一「ブラック・アフリカ諸国における文書館とアーキヴィスト養成課程」史料館研究紀要一五号昭和五八
- (8) D.S. Landes & C. Tilly (eds.) *History as Social Science*. 1971 Prentice Hall Inc.
- (9) R.W. フォーゲル／S.I. エンガーマン共著、田口芳弘・榊原伴夫・渋谷昭彦共訳「苦難の時—アメリカ黒人奴隷制の経済学」創文社昭和五七、Fogel, R. W. and Engerman, L. *Time on the Cross. I The Economics of American Negro Slavery. II Evidence and Methods*. Little, Brown and Co., 1974
- (10) 国立史料登録局に収集された史料目録について H.M.S.O で販売されている *Accessions to Repositories and Reports added to the National Register of Archives* を参照されたい。一九八二年現在で二万七千件が登録され、更に追加情報が寄せられている。しかし機械化や自動化つまり電算機応用検索は行われていない。理由は六節で紹介する P.R.O. のローバー氏の議論をみられたい。日本の国立史料館においてもほぼ同数の史料目録を保有し閲覧に供している。

一 ユネスコRAMMPの事業活動

ユネスコ本部PGI企画専門官フランク・エヴァンズ氏は成熟国・発展途上国を問わず、史料保存利用施設の発展向上に努力を傾けてこられた。八年間の在任中に指導相談のため訪れた国八〇カ国をこえている⁽¹¹⁾。PGI情報総合計画部にRAMMP「記録文書管理促進企画」特別委員会を一九七九年に設置し、ICAとの連携のもとに事業の推進をはかった。此の間多くの報告書がPGIのARAMP Studyとして関係方面に配布され、知識の伝達と啓蒙に貢献している⁽¹²⁾。またPGIの機関紙であるUNESCO Journal of Information Science, Librarianship and Archives Administrationの四巻二号一九八二年は史料保存利用施設に関する特集を組んでいる。此の特集にはエヴァンズ氏のほかに六人の寄稿が見られる。七人の国籍はアメリカ・スリランカ・フランス・インド・ソ連・イギリス(二人)と多彩である。その論ずる所を紹介するのが本稿の当面の目的であるものの、マイケル・クック氏の「アーキヴィスト研修の国際基準」は既に別稿に紹介したので、ここでは省略する⁽¹³⁾。

ところでエヴァンズ氏は右の雑誌四巻三号一九八二年にUNESCO and Archives Developmentと題して史料保存利用施設に対するユネスコの関わり方について論じている⁽¹⁴⁾。とくに一九七九年にRAMMPが設置されて以来の、様々な援助活動について詳細に述べているので、まずRAMMPの援助活動が国際的にどのように行われているかを見ることとしよう。

RAMMPにおける企画の実行目標は五つある。

- 1 情報に関する政策と企画
- 2 方法・規範・標準化の推進

3 情報にかかわる直接的間接的基盤向上

4 特別情報システムの展開

5 情報専門職の育成教育および利用者問題

右の目標を達成するために、一九七九年から一九八二年六月までの短い期間に企画され実行されたのは、次の事柄であった。

一 情報政策と企画

1 文書館・記録センターのための統計調査項目

ICAと協力してユネスコ統計局による試験調査において試みられたあと、此の統計調査項目の素案を企画し、準備した一九七七年のICA実務委員会の会合と同様に、素案を検討し改訂した一九七九年の専門家集会に対しても、ユネスコは資金援助を行った。調査項目は今やユネスコによって英語・フランス語で出版され、そして世界中の調査に当ってはICAと協力するユネスコ統計局によって利用されている。

2 国際機構における文書館案内

国連当局の文書を含めて此の案内の第一部は一九七九年に第一版が印刷された。此の版は改定・増補され、一九八三年の始めに英語・フランス語・スペイン語で刊行されることが予定されている。第二部は現在準備中である。それは国際機構の文書と他の文書館に保管されている前任者たちの文書を含むであろう。第三部は一九八二年に準備を始め、国連以外の政府間機構と国際民間機構の文書を含む筈である。

3 文書閲覧に対する障害

此の研究は英語・フランス語・スペイン語で刊行されるであろう。此の重要な問題の専門家会議を準備す

るための基礎文献として配布するため、一九八一年に発案された。

4 国立文書館における科学技術情報案内

模範的案内の準備は一九八一年に始まり、一つは成熟国の代表としてスウェーデンの国立文書館によって、もう一つは発展途上国を代表するものとしてインド国立文書館によって作成される。

5 国民的情報システムにおける文書館・記録センターの役割

総合的な情報政策と企画の促進にとって重要な此の研究は、現在作業が進行している。英語・フランス語・スペイン語で刊行の予定

6 アフリカにおける公共サービスにおいて情報専門職との関係におけるアーキヴィストの地位

一九八二年に着手された此の研究はそれ自身の正しさにおいて価値あるのみならず、他の地域における同様の研究にとってもモデルとして配布されるであろう。英語・フランス語・スペイン語で刊行される。

二 方法・規範・標準の推進

7 規範・標準に関する RAMP 指導要領の専門家会合

全ての文書・記録管理制度とサービスを確立し改良するための、方法・規範・標準についての指導要領を発送させることの重要さの故に、専門家会合が一九七九年九月三日から五日にかけてイタリーのバリーで開催された。その会合での勸奨は一九八〇―八二年実行案を企画するのを助けた許りでなく、RAMP に関する将来の企画立案にとっても効果があった。

8 文書館・記録センター管理文献に関する案内

此の問題の展望に関する研究―要約作成可能性―は一九七九年のことであり、「文書館時報第一次史料・第

二次資料による分野範囲の研究」を刊行した。此の研究の成果は「文書館時報」を作成するさい、「図書館・情報科学要約集」と共に利用されている。

9 マイクロ形態の法的効力

此の研究は一九七九年に「証拠としてのマイクロ形態の許容」に結実した。フランス語・スペイン語でも提供されるであろう。此の研究は此の問題に関する将来の専門家会合のために、実務記録として配布されるように計画されている。

10 文書館・記録センター管理に対する既存の指導要領と標準の適用可能性

バリー会合勸奨を補足するために、此の研究は一九八〇年に準備され、「文書館運営および記録センター管理のためのUNISIST指導要領とISO国際標準規模の適用可能性」として刊行された。フランス語・スペイン語でも提供される。RAMPの指導要領よりまなほ一層の展開を企画するのに利用されている。

11 文書館保有物の抽出調査の利用

「記録保有物における抽出標本調査技法の利用」として刊行された。此の研究はフランス語・スペイン語でも提供される。

12 記録調査と手順

此の重要な分野の指導要領を含む研究は完成している。

13 国立文書館での利用案内作成のための模範例

指導要領と比較研究

14 映画および関連記録の文書館的評価のための指導要領

史料保存利用施設の国際環境（安澤）

一九八一年にICAおよびフィルムアーカイヴズ国際連盟の協同作業により、一九八二年に完成する予定である。

15 機械可読記録の文書館的評価の指導要領

ICA自動化委員会による討議のあと一九八一年に企画された。

16 文書館・記録センター管理の法令・規制に関する指導要領と研究

此の重要な問題に関する討議は一九八一年に準備され、一九八二年末には刊行の予定である。

17 紙記録と刊行物の（物理的）保存と修復に関する指導要領と研究

PGI政府間協議会の最近の会合の結果として、次第に増大しつつある保存の危機を反映して、視聴覚記録と文書館の問題について議論された。

18 写真資料の保存と修復に関する指導要領と研究

19 写真記録・版画および関連記録の文書館的評価と研究

三 情報基盤の展開

20 地域（県・地方）文書館網形成のための先導事業—インドネシア

特殊器具・消耗品についてユネスコが助言と財政援助を行う四カ年計画を、インドネシア政府は一九八〇年に同意した。地域文書館分館と記録センターを結びつけることは、中央ジャワの首府セマラングで実施され、担当者は記録の調査・手続き・移管について研修をうけている。事業は他の国々と此の経験を交流するための研修会を開催して一九八三年に終結する。

21 地域（県・地方）文書館網のための先導事業—フィリピン

フィリピン政府の要請にもとずいて、右同様の四カ年計画についての同意が行われ、此の事業はセブ市郊外に模範的文書館分館と記録センターを創りだした。此の事業を保障するように助言した政府への報告書は刊行された。

22 近代的記録管理に関する先導事業—ペルー

此の先導事業4カ年計画については政府同意のもとに一九八〇年に始まった。国立記録センターとして活動するように、リマに敷地を獲得できた。研修は調査と手続き、またファイリングシステムとファイル管理についての助言が中央政府当局に提供された。事業促進のための助言者からの政府への報告は刊行された。此の事業は一九八三年に地域研修会を開催して終結する予定である。

23 記録修復および複写研修センター、アルゼンチン・コルドバ大学文書館学校

アルゼンチン政府の同意のもとに一九八〇年ユネスコは文書館学校に特殊器具と消耗品購入および館長の上級研修のための費用という限定的使途の財政援助を提供した。またユネスコはラテン・アメリカのための此のセンターが活動を開始した時、研修のために何人分かの留学費用を提供する。その研修は一九八二年後半に開始されるであろう。センターは文書館員を対象とするが、また図書館員や文献資料解析員のためにも技術職を要請する筈である。センターを設置するために行った助言つまり政府への報告は刊行されている。

24 記録修復・複写地域研修センター—スーダン、カルツーム中央文書館

此の事業はアラブ地域・東アフリカのための同様事業との並行企画であり、スーダン政府と一九八〇年に同意を見た。政府への助言報告は刊行されている。

25 利用者の要望と文書館史料サーヴィスの研究

此の研究および以下の四つの研究は一九八二年実行計画であり、ICAとの協力が用意されている。

26 移管ファイルにおける科学技術情報の確認と評価に関する方法論の研究

27 アフリカ諸国における文書館・記録センター管理システムとサーヴィスの状況と要望に関する研究

PGIによって促進され、詳細な質問表にもとずいてアフリカ諸国に送付され、ユネスコ第二一回総会で採択された課題に対する直接の対応である。

28 私有文書の保存と整理管理の研究

ICAとIFLAとの協力による此の研究は、予定されている将来の専門家会合における実行案として利用されている。

29 文書館に関する所在および案内の国際的書誌

たいていの場合、文書館当局者によって文書館所在案内が作られていても、商業出版社によらないため、広く知られることがない。此の事業は文書館に対する広範な利用への障害を除去するために援助を行うものである。

四 特別情報システムの発展

30 国連当局における文書館・記録センター管理システムとサーヴィスの機構

指導要領を含む此の研究計画は一九七九年一月一七〜一九日ニューヨーク市で開催された専門家会合で取りあげられた。ICAの国際機構アーキヴィスト部会によって一九八二年末に完成することが予定されている。

31 国際機構の企画書類の文書館的評価

これもICA国際機構アーキヴィスト部会によって作成される。

五 情報専門職研修・教育と利用者

32 文書館員研修計画の調和に関する専門家助言

一九七九年一月二六日から三〇日に、イタリー・パリで行われた会合は二つの基礎研究と最終報告をまとめた。情報科学・図書館学・文書館学における研修計画の調査について、一九八三年に国際シンポジウム開催のための準備に利用されるであろう。

33 研修要望を強化する地域セミナー

南アジア・西アジアにおける文書館研修要望に関するセミナーは一九七九年一月二日～二八日スリランカ・コロンボで開催された。そこでの勧奨はインド文書館学校の発展を援助するのに利用されている。

34 ガーナのアクラ、セネガルのダカールにあるアーキヴィスト養成センターに対する特別講義と奨学金の提供

これらのセンターの要請で、専門家が修復・複写・自動化の講義を指導したり促進するための、また数人の学生への奨学金が一九七九年以来与えられている。

35 マイクロフィルム技術者のための研修課程―東南アジア

一九七九・八〇年に相談サーヴィスと財政援助がインドネシア・マレーシア・フィリピン・シンガポール・タイで行われた課程のために提供された。

36 アーキヴィスト教育科目および研修課程に関する助言相談

一九七九年に研修計画の向上についてインドネシア国立文書館に助言するために政府の要請に応じた。また一九八〇年にはアーキヴィストの専門的研修要請に応じるために、カリブ海地域にコンサルタントを派遣

した。一九八二年西インド大学に設置されることを期待されている研修計画を促進するために相談サーヴィスが行われるであろう。

37 文書館管理に関する国際セミナー

英国文化省とICAおよびユネスコPGIによって組織され、一九八〇年、イギリス・ブラックウエルで開催されたセミナーへの発展途上国からの参加者に対し、旅費・学費を提供するための財政援助がICAを通じて行われた。セミナーは一九八〇年九月二日から一〇月三日にかけて、ICA国際会議ロンドン一九八〇のあとで開催された。

38 研修センターの発展―南西アジア

一九八〇年に職員派遣を促進するために財政援助が行われ、また文書館学校を学問的に強化するような立派な研修課程に転換するのに必要な教材や器具と研究費などが、一九八一・八二年にインド国立文書館に贈られた。

39 修復・複写研修センター―カリブ海

カリブ海地域における修復・複写サーヴィスを確立し操作するための、研修課程を組織し指導するよう、ICAカリブ海地域支部に援助することを一九八一年にきめた。

40 文書館運営の研修課程―太平洋地域

太平洋地域において文書館責任者に任命された人のために基礎的な研修を提供するための初歩課程がICAと協同して組織された。課程は一九八一年一〇月一三日―一九日にフィジーのスヴァで開催された。何人かの旅費と滞在費を賄う財源が提供された。

41 文書館・記録管理における課程指導要領

此の研究は一九八一年少数の専門家によって概括され、一九八二年末までに英語・フランス語・スペイン語で刊行される。

42 文書館運営・記録管理に関する基本文献企画

此の基礎的指導用具のための詳細な企画は一九八一年に始まり、改良された案の履行は一九八二年事業の予定に入っている。

43 文書館運営・記録管理研修において利用される視聴覚資料の所在一覽

一覽の原稿は一九八一年に準備され、刊行が承認されている。

44 文書館問題の作業

此の作業の指導員に財政援助が提供できるように準備された。ジンバブエのハラレ(前のソールズベリ)で一九八二年九月一三・一四日に予定されているICA東・中央アフリカ地域支部の第7回隔年会議と結びついて行われる。

45 文書館法セミナー

中央アフリカ共和国バングイで一九八二年九月二〇〜二四日に予定されている地域セミナーの二人の講師と参加者の旅費を賄えるように、財政援助が用意されている。

46 カリブ海諸国国民的情報システム総合発展の先導事業

一九八一年に此の先導事業の一部として行われる短期研修へ参加するアーキヴィストに対して財政援助が準備された。

以上四六件ものプロジェクトが企画され、実行され、あるいは進行中であつた。そのカバーする範囲の広さは、一驚に価する。如何に精力的に事業を推進しているかを物語るとともに、成熟国・発展途上国を問わず、文書館というものがその国の根本的な情報資源の源泉としていかに評価されているかが判る。整備された文書館の存在はその国の国民的文化水準を反映するものである。これまで紹介されることの少なかったユネスコ PGI・RAMP の事業についての情報を通じて、史料保存利用施設の国際環境に対する理解が深まることを願うものである。⁽¹⁵⁾

注

(11) 安澤秀一「ユネスコ本部文書館専門官エヴァンズ博士を案内して」史料館報三九昭和五八

(12) 安澤秀一「ブラック・アフリカ諸国における文書館とアーキヴィスト養成課程」史料館研究紀要15昭和五八、また小林蒼海「公文書の作成から保存利用までの一貫した管理—フランク・B・エヴァンズ博士の報告書の紹介を中心にして—」北の九一六昭五九にマレイ

シアの事例が紹介されている。

(13) 前掲安澤「ブラック・アフリカ諸国」

(14) 安澤秀一「ユネスコと文書館」岐阜県歴史資料館報7昭和五九に、エヴァンズ氏論文の前半を紹介しておいた。

(15) RAMP 研究報告書目録抄は付録 I として末尾に掲げる。またエヴァンズ氏から、英語で書かれた整理管理・保存管理に関する基本文献のリストが安澤に送られてきたので、これを付録 II とした。

二 スリランカの史料館 II 文書館

アジア諸国の一員としてわれわれは他の国の文書館がどのように運営されているのかを知る必要がある。さいわい UJISLA4-2 の特集号にスリランカの事例が報告されている。⁽¹⁶⁾ 執筆者 G・P・S・H・デ・シルヴァ氏はスリランカ国立文書館副館長という地位にあり、国際的に活躍されている人である。彼はスリランカにおける文書の歴史

から始めて、現在における保存の理念的制度的問題と物理的問題とをバランスよく論じている。熱帯地方にある文書館の抱えている困難な課題がよくわかるし、旧植民地であった国での文書館制度が国民的課題として大きな意義を持っていることも知りうる。公私を問わず、原史料の伝存と将来的保存への取組みこそは其の国の歴史そのものとなることを、いったん植民地化されたことによって、かえって強く認識し、保存と公開利用に力を尽そうとする意気込みが感じられるのである。

デ・シルヴァ氏はまずアジアの文書館制度を概観して次のようにのべる。

「アジア諸国の文書館は比較的最近のものである。アジアの大部分の国は数千年もさかのぼる歴史をもっている。しかし現代的な意味での文書館において、そうした時代をカヴァーする記録の組織的収集や継断的保有を行っているところは一般的に珍らしい。アジアは、ヨーロッパが領土においても貿易においても宗教においても拡大するために東方に向って進出し始めた一五世紀以来、西欧植民地主義の矛先をうけた。対決の結果は概して植民地化された国々の政治的経済的破綻と、更に知的停滞を導いた。そうした国々のほとんどでは、より現代的な文書館のあり方についての一般的な認識が深まるまで、文書が激動の時代を如何にして生残り得たかということこそ問題であった。」

〈スリランカの歴史と文書館〉

スリランカはインド亜大陸の南端から僅か45kmのバルク海峡によって切離された島である。西暦前三世紀における記録された歴史の最初から、島は独立王国であった。一八一五年までその王国の活動は島の年代記に記録されていた。それは石碑・考古学的発掘・外国での記述などによって検証できる。年代記はその時代の王室文書館にある史料やさまざまな伝統的寺院の文書にもとづいて書かれていた。

「しかし今それらはどこにあるのか。これはスリランカだけが直面している問題ではなく、アジア諸国の大部分にもあてはまるのである。」

スリランカの諸王は一一世紀以降、外部からの侵攻に対処して何回となく安全を求めて王都を移した。最後の首都カンディは一七世紀以来二〇〇年の間、ポルトガル・オランダ・イギリスによって繰り返しまなく探された。地方や外国の文献の中で、島の文書・記録・書物についての多くの証拠がのべられているが、今は失われているのである。スリランカにおける最初の文書の日付けは、よく一六四〇年というオランダ人の到着と結びつけられるけれど、それ以前にスリランカに文書がなかったことにはならない。オランダ人の手に落ちる以前のポルトガル統治に関する僅かな記録は一八世紀に破壊されていた。そのためにスリランカの文書館は一六四〇―一七九六年のオランダ統治の記録、一七九六―一九四八年のイギリス統治の記録、一九四八年独立後の記録からなっているのである。オランダ統治に関する組織的な文書の蓄積は、一七九六年二月一六日オランダの批准によって発効したサレンダー条約の第四条に従って、イギリスに継承された。そして一九四七年までのイギリス支配の初期以来、文書館は弁務官官房の一部であった。文書館が行政組織の中で独自の地位を認められたのは一九四七年の独立以後のことである。

オランダ統治の頃は不明であるが、イギリス統治時代には政府記録の保存と移管に関する処理規則があった。その処理規則以前は、それぞれの行政当局が文書館に記録を移管せず、それぞれの官庁において行政上の必要に基づいて記録を保管していた。

〈歴史研究と文書館〉

歴史研究における文書館利用について、デ・シルヴァ氏は次のようにのべる。

「植民地時代スリランカにおいて記録を探し求めることは、楽しみ多い知的な気晴しであった。……」

植民地支配層が文書館をより知的で専門的に利用すればする程、公共のためというよりは、特権的な人びとに對してのみ利用されることとなった。公衆が文書館の存在に気付くようになるのは一九四七年以後、文書館が独立の施設となった後のことである。」

そして歴史研究その他のために地方の研究者によって利用されはじめるのは、更に二〇年も後のことであった。この文書館利用の未発達はその国の学問的風土や研究遂行の方法と結びついているようである。

〈文書館法の制定とその効果〉

今日、独立した国のほとんどの文書館が設置されている。スリランカでは一九七三年まで文書館法をもっていなかったものの、記録を文書館に移管することが容易であった。植民地時代については文書館にある一九・二〇世紀初頭の沢山の保有物にみられるようにある程度証明される。スリランカ文書館が保有しなければならぬ時代の記録を全て持っているとはいえないけれども、それを法制の欠落にのみ責を負わせる訳にいかず、保管空間の少なさも原因に数えあげることが出来るよう。

「独立国としての活潑な行政活動にともなつて、今日、作成される記録は極端に多量である。スリランカの文書館が独自の法規で守られるという状況におかれたのは幸運であった。とはいえいまだより少ない費用とより高い効果で非現用記録を保存するための、またその評価・公開および移管を行うための、行政庁と文書館との橋わたしをする中間記録センターを設置してはいない。それにもかかわらず政府省庁・公共機関から文書館に記録を預託したり、あるいは移管手続きに関する勧告を求めたりすることが多くなっている。このことは活動している機関としての文書館にとつてもっとも活性的な機能の一つとなつており、それゆえ良い将来を予告するものである。もし文書館がその時代の社会の鏡であるならば公開制度をとらねばならない。」

旧宗主国イギリスがバブリックレコードオフィス、カウンティレコードオフィスという中央・地方の史料保存利用施設を巧みに運用しながら、「文書館法」を持たないで過してきたのに対し、「文書館法」⁽¹⁷⁾を制定することでスリランカの文書館をよりよく機能させようと努力していることが、真剣に議論されているのである。

〈文書館建築と設備Ⅱ保存管理〉

アジアにある文書館として是非とも考えねばならないのは、適切な建築と内部設備であろう。地域によって異なる温度に付随する危険がある。温度と湿度が高い地域ではこの問題は深刻である。十全の対策は空調設備であるけれど、国によっては経済的条件からみて贅沢品とみなされてしまう。いまスリランカの文書館は空調設備を備えた七階の保存庫を建てている。永久保存に価するとされて文書館に移管される記録を保存するということは、理念的に保存をいうばかりではなく、物理的に保存の措置がとられねばならない。デ・シルヴァ氏はいう。

「スリランカで強く取上げられる重要な問題点は、入ってくる記録の衰れた状態である。スリランカでの経験は、記録が情ない物理的状态のまま受入られているということである。移管以前に記録を清掃し、ラベルを貼り、特別に綴り直すといったことを移管先に要求するような、厳格な規則を現在のところ課すようなことは出来ない。もっと深刻な問題は用紙そのもの状態である。基準がなかったので様々に質の異なる用紙が存在し、ここから発生する問題について将来のアーキヴィストに対する同情の念をもって見守るだけである。」

「更なる問題は塵埃・泥・かび・紙魚虫・油虫・木食虫および時として鼠や白蟻によってもたらされる。右に列挙したものは熱帯地方で普通にみられ、また工業によってもたらされる大気汚染もアーキヴィストにとって複雑な問題をつくりだしている。」

スリランカ文書館で行われる手持ちの真空掃除機使用による清掃では、この問題の真の解決にはならない、と歎

いている。高温によるカビの発生とか記録の変質は起つてからでは解決が困難である。高温多湿という条件は、紙記録と別にフィルム・写真・磁気テープ・音声レコード・線描画・版画などにたいへん害を与える。保存庫に入れるまえに燻蒸が必要であるにも拘らず、大量処理の設備がないため、バラディクロベンゼンを使う少量燻蒸で間に合わせているという。将来における燻蒸や二四時間運転空調設備の設置は緊急課題となるであろう。

〈修復と複写〉

右のべた予防的保存手段に対して、事後の対策が修復である。

「修復については他の文書館と同様に、スリランカでも脱酸後、書類補修のために薄紙および手すき紙を使う従来の補修方法を行っている。経験上、絹で行った補修は他の材料で行った補修よりもずっと早く劣化し、また害虫による攻撃にさらされやすい。セルローズアセテート熱処理による両面貼りはスリランカでは限定的にのみ新聞にしか使われていないが、それさえ経済的逼迫のために減額され、ついで停止されている。」

日本での現況からみて、脱酸処理がまず行われるということは羨ましい限りの処置である。熱処理両面貼りは熱処理が紙質の劣化を引起こすことから最近では加熱しない方法がすすめられている。両面貼りには手作業と機械式とがある。先進国で使用されている高度技術の欠損部自動補償機械の導入は経費がかかりすぎるであろう。⁽¹⁸⁾

「補修の古典的方法は経済的にも素材に対する効果においても非常にすぐれているが、緊急な処置を必要とする大量保有物に対して、限られた人手で行っているのは時間がかかりすぎるといふ不便さを持っている。」

物理的保存対策のもう一つの手段は史料のマイクロ化である。マイクロ化によって原史料の直接閲覧による損傷や劣化を防げるからである。また遠隔地からの閲覧希望やあるいは史料の国際的相互交換にも便宜を提供できるし、保存空間の節約にも役立つのである。ただし閲覧用の機械を沢山設置しなければならないという費用の問題が立ち

現れる。マイクロフィルムからマイクロフィッシュ、さらに磁気ディスクや光ディスクのような技術水準の高い機械になればなるほど、そのコスト高を賄う必要が生じる。これは開発途上国だけの問題ともいきれない。何故ならばマイクロ化しても結局閲覧によるマイクロフィルム損耗を防ぐ為には、利用者サーヴィスとして紙焼きの提供の方が、長い眼で考えた時、コスト安になるからである。日本の史料保存利用施設での紙焼本サーヴィスはユネスコの専門官視察の際に、国際的な評価をうけている。⁽¹⁹⁾ スリランカは一八三二年以来の新聞について、その紙質の悪さと、大きさのゆえにマイクロ化を行っているという。

スリランカ文書館が備えている備品について、デ・シルヴァ氏は次の様にいう。

「マイクロフィルム部門も修復部門も基本的な必要物は備えている。マイクロフィルム部門にはカメラ・現象機・焼付機・拡大機・フィルム視読機はあるが、品質や基準を検査する器具はない。修復部門には技師補一人・補修主任一人・書類補修係一人・製本係一人がいる。また脱酸用器具・加圧機・裁断機・書類補修用特製機・人手による補修用必要器具もある。書類の補修に、乾燥後の加圧なしですむナイロン布や樹脂加工紙の使用がここ数年、大量処理に役立っている。また文書館は公有・私有を問わず、バームリーフ文書の伝統的な方法による保管と修復を行っている。」

右のほかにP・H測定器なども必要であろう。

〈国立文書館以外の史料保存〉

スリランカには国に一つの文書館しかない。しかし文書館は企業や個人その他に対して、記録の保管についての忠告を求められれば、これを与えている。とはいえ非政府部門とくに企業の世界における文書環境は良くない。西欧と違って、此の地域における特別な企業史料センターは存在しないし、その企業史料保存活動の研究は未発達の

ままに止まっているようである。とはいふものの、仏教寺院の保有している手書き本が大量に存在している。

「国中に普ねく存在する仏教寺院は時として教世紀の間、そこに居住したビヒクス(高僧)の学識如何によつて文書や手書き本の量が多かつたり、乏しかつたりするのである。」

此の地域の国々での共通の事柄として、ある国の文書が移動して、他の国において、その国の文書と一緒になっている場合がある。その解決法はマイクロフィルムによる複製である。

「スリランカの場合、ゴヤの行政に関する主要な文書はオランダ・ポルトガル・イギリスにある。そうした様々な場所にある記録のマイクロフィルム複製を入手するために、一九八〇年ユネスコに援助されながらスリランカの資金で賄われる仕事が始まつた。」

〈アーキヴィストの研修と文書館活動の啓蒙〉

「専門的技能的研修についていえば、アジアの大部分の国々はそうした課程を提供する大学もなく、また機関の能力ゆえに独自の養成も困難である。スリランカには専門アーキヴィスト一二人がいる。このうち上級専門職五人は海外の大学その他の機関において、大学院での学問的専門的資格を獲得している。高校卒で採用される技術職は普通、職場研修をうける。」

史料保存利用施設Ⅱ史料館・文書館についてのイメージが各人各様の勝手な思込みでつくられている日本の鎖国的状況と違い、スリランカはまともに先進国から学ぶ努力をしている。デ・シルヴァ氏は次のようにいう。

「文書館とは何かを理解させ、またその保有史料を利用できる様にするための啓蒙・教育活動のために、スリランカでは新聞・ラデオや公開講演会・出版物・展示会などが利用されている。また官公庁での記録管理のために、研修会や個人指導もある。そのため国立文書館は地方行政機関と提携して一週間の講習会を開催している。

様々な官公庁の人々を対象とする此の講習会は、第一に役所で作成される記録のために、第二に文書館法の要件を充すために、満足のゆく記録管理の積極的效果を強調することを主眼としている。文書館についてのより一層の紹介は、官公庁の現場で製本業者に委ねられている現用記録の製本と管理についての六週間講習会で行われる。文書館で行われる此の講習会の成果は、文書館に移管されるまで、もしくはその他で移管年限に応じて処理されるまで物理的な保管に責任を負う人々に、官公庁における記録の重要性への関心を喚起するものである。」

啓蒙活動は官公庁に対してだけでなく、官公庁以外の機関や個人に対しても記録についての調査を行い、また口承史計画を進める計画も行っている。最近では諸団体や企業の保有する記録についても積極的に働きかけているのである。

右にほぼ紹介したような議論を展開したデ・シルヴァ氏は、格調高く次のような結びを述べている。

「百年前と違って、今日では、政府行政記録のみでその国の諸活動についての十分な見解を得ることが不可能になっている。どんな国の歴史検証にとっても、主要な史料としての公的分野での記録の重要性は異論がないけれども、其国の千差万別の諸活動のより総体的な理解を深めるためには、私的分野や個人分野での記録への関心が強調されねばならないし、理解されねばならない。スリランカにおいて文書館は公的・私的分野の何れをも強調しているし、そして公的分野でのより効果的な実現と、私的分野における記録保存の開始を有利にするような世論状況を作り出すようにつとめているのである。」

注

- (16) de Silva, G.P.S.H. Archives in developing countries: Sri Lanka, a case-study within Asia, UJIS-LAA 4-2 1982
- (17) 安澤秀一「イギリスの文書館法とアーキヴィスト協会」『地方史研究三四—二昭和五九』
- (18) 安澤秀一「保存管理国際会議ケンブリッジ一九八〇」『史料館報三七昭和五七』および「史料保存利用施設における保存修復管理職」資料保存国際セミナー報告・金沢工業大学昭和五九
- (19) 安澤秀一「ユネスコ本部文書館専門官エヴァンズ博士を案内して」『史料館報39昭和五八』

三 インド国立文書館における史料の保存科学

インド国立文書館付置文書館学校保存科学部長Y・P・カスバリア氏は保存科学の国際的權威であり、ユネスコPPGI-RAMP報告書をいくつも書いている。UJISLAA 4-2には「文書の(物理的)保存と(理念的)保存」について寄稿している。⁽²⁰⁾以下にその議論を紹介したい。

「現在、我々が保有している文書は、使用されていないけれども何世紀の間、注意深く扱われてきた。初期の記録保管者ないし作成者の関心事はとにかく物理的にいかに記録して保存するかであった。以来、記録は羊皮紙・仔牛皮・バームリーフ・バーチ樹皮・粘土板・石・銅板・パピルス・布などのような耐久性のある材料を使って作成された。現今では記録は紙・フィルム・テープ・電算機入・出力・パンチカードなど、耐久性に疑わしさのある素材を使って作成されている。文書館での保管者にとつての課題は、現代科学の産物であるそれらの物理的保存ということになる。二つの世界大戦の間と、その後、保存科学の技術は発展した。」

〈初期の物理的保存〉

カスバリア氏によると、これまで書類の寿命を引伸す方法として用いられていたのは、次の様な事であった。

「虫や塵埃・湿気から守るために、木や象牙の円筒容器に巻物を入れるとか、木綿布や麻布で包むとかされた。光や熱の影響から守るためには暗い場所に置かれた。……香柏油や柑橘油はバビルスに書かれた記録を保存するために古代世界で用いられた最初の虫撃退薬であった。書類素材によって時々用いられたのは樟腦・丁香油・ユーカリ油・じゃ香などであった。或る種の匂の強い花や葉は虫から守るために紙片の間に挟みこまれた。その使用が有害であるにもかかわらず、この方法は広まっており、今日でさえ消滅していない。」

われわれも史料に煙草の葉が挟みこまれているのをみかけることがある。桐の箱や漆塗りの箱に入っているものもある。しかし今日の大量保存には向かない方法である。

〈予防的保存策〉

大量史料の保存を目的としている今日の史料保存利用施設は、そのために特に設計された保存庫を持つのが普通である。カスバリア氏の調査によれば、一九七七年以前に文書館建物を新築した国はオーストラリア・インド(ウツタルプラデシュ・グハラト・アルドラプラデシュ)・インドネシア・イギリス・日本であり、計画中はベルギー・インド・イラン・イラク・ケニア・マレーシアおよびシンガポールである。ただし昭和四六年に創設された日本の国立公文書館の場合、その敷地を文化庁によって当初の半分に削られたことなど、全く外国では思いもよらないことのようにある。第二次世界大戦後、湮滅の危機にあった近世・近代の地方史料の一部を救済して、昭和二六年以来保存利用に供してきた通称〈国立史料館〉の場合は、昭和四七年に新設された国文学研究資料館という類縁機関の下に埋没したため、調査の対象とされることもない。

カスバリア氏は避けなければならない設計上の難点として、ガラス壁の使用や保存庫の上の洗面所を挙げている。ガラスは光と熱に対抗できないからであり、洗面所は湿気を招くからである。次のことも大事な指摘である。

「空調設備のある文書館の設計と、建築に使用される材料とは、文書館保管史料の劣化の主要な原因となる虫・カビ・熱・光・湿気・火・磁気・および自然破壊に対して、最大限の保護となるものでなければならぬ。」

「一般に適用されている一つの特徴は、書架に格納されるのに先立って、中性紙のファイルまたは文書箱の中に記録を入れることである。」

〈保存環境〉

記録の耐久性を確実にするための方策として、次の諸点に対して注意を払わねばならない。生物的害悪・温度・湿度・大気汚染・塵埃。

「虫に対しては殺虫剤としてのDDTの入った混合除虫菊剤や、防虫剤としての樟脳・ナフタリン・またはパラダイクロロベンジンがある。熱帯地方で特に使われるのはダイエルドリンとかダイエルドレックスといった塩素化炭化水素である。」

「燻蒸は幾つかの文書館で実施されている。とはいえカーボキサイド・ガスあるいはメチルプロマイドによる真空燻蒸の設備を持っている文書館は少数である。小規模の場合には、バラ・ダイクロロベンジンが使われている。」上のほかにも薬名を挙げているが、人間に有害とあるので省略する。防カビ剤にはオルソフェニール、PクロロMクレゾール、チモールが使われている。

燻蒸設備は費用がかかるので、小規模文書館は移動燻蒸設備を共用ないし賃借することが望ましい。北半球にある寒冷地国は虫の問題がないので、燻蒸設備を必要としない。例えばベルギー・フィンランド・オランダ・ノルウェ

イ・ポルトガル・スイス・フランス・スペイン・イギリスなどがそうである。

太陽光が文書保存に対して害を与える事は既にみた。建物の中の照明についても細心の注意が必要である。大抵の文書館保存庫はスイッチで用のある時だけ照明を入れる。白熱灯が使われている所もある。イタリーでは保存庫では携帯用照明が使われているという。展示用には間接照明と紫外線を出さないようにするフィルターをつねに使用することを忘れてはならない。

スリランカのデ・シルヴァ氏と同じく、カスバリア氏も温度と湿度の問題を強調して、次のようにいう。

「熱と湿気という二つの要素は熱帯・亜熱帯諸国において最悪の損傷を引き起す。……空調の目的である温度と相対湿度は二〇度C＋マイナス二度、四五％～五五％である。しかしながら温度と相対湿度について画一的なことはない。例えば、バハマでは温度一八度C・相対湿度五九％を維持しているが、カナダでは一七度C・相対湿度五〇～五五％が適切なのである。アメリカの国立文書館では温度一九～二四度Cという幅と相対湿度四六～五四％である。マレーシアとシンガポールでは温度二一～二四度Cの幅で、相対湿度は五〇～六五と高くなっている。デンマークやソ連などでは温度が一〇度Cをこえれば暖かいと思うであろう。……除湿機の使用は効果が期待できる。……夫々の文書館は温度と相対湿度を測定する器具を備えるべきであり、その測定記録を定期的に行わねばならない。」

工業化が進行すると、大気中の有害物質が増加する。化石燃料の燃焼によって生じる酸化硫黄・酸化窒素・酸化炭素といった酸化気体である。

「それらは文書素材を酸化させ、それ故に文書素材の劣化を進行させるのである。また吸湿性のある塵はカビを増加させるし、汚れと損傷の原因となる。……それ故取りいれ空気のアルカリ洗浄を行わねばならない。」

火災対策についてカスバリア氏は具体的な指摘をしている。

「文書館建物は導管の中に電線を収納し、保存庫の外に主要制御スイッチをつけて、偶発的な事故を予防する。経路上、防火素材を使用した防火隔壁の中に保存庫を設置する。空調設備のある建物ではダクトの中に自動遮断機を設置して火災の拡張を防ぐ。熱感知機や煙探知機も必要である。発生した火災に対しては二酸化炭素ガスか、ハロゲン・ガスが使われる。……こうしたこととあわせて、職員の避難設備と保存庫からの記録の撤収および消防署との連絡といったことが、現代文書館の必要物なのである。」

最近、用紙劣化の問題が日本でも盛んに論じられるようになった。

「紙の劣化の原因の主なものには酸化である。酸化は不純なセルロースの使用、不適切な製造過程のために残る化学物質つまりロジン、アルムサイジングといった一連の要素によって引起されるのである。書類の酸化の程度つまり高酸性、低酸性、中性、あるいはアルカリ性であるかどうかを知ることが大事である。どの文書館も記録の中の酸性の存在を探知し、それを除去する設備と職員を抱えねばならない。記録が良好な条件にない時、中性化という解決法は、夫々の用紙の取扱を含む脱酸法という費用のかかる方法によらなくても済む筈である。燻蒸設備を利用するずっと簡単な方法つまりアンモニア脱酸法がある。単純な技法であり、高価な材料を使うこともないし、書類を傷めることもなく中性化できる。其上、空気洗浄設備のある空調保存庫で保存されれば、再び酸化されることはまずあり得ないのである。」

保存科学国際会議ケンブリッジ一九八〇においてドイツの研究者の示した低温下アンモニア処理という方法は、この目的に適っている。⁽²²⁾しかしモルフリンやダイエチルチンキが大量脱酸に使用されることについては、カスバリア氏は強い疑念を表明している。

劣化の進行した保有物が文書館には沢山ある。しかし補修の実務を担当する熟練者の数は少なく、財源も乏しい、とカスバリア氏は歎く。様々な修復技法があるけれど、長い時間をかけてつくりあげられた伝統的技法こそ確実なものであり、いまやフローレンス技法として知られている方法である、とものべている。また機械式両面貼りよりも、手塗り溶液両面貼りのほうが実際に適しているともいう。前者は加熱による素材の質変化が危慮されるからである。しかし欠損部自動補償機械には高い評価を与えている。

カスバリア氏は最後に、結局こうした物理的保存と修復の向上は技術資格をもち、習練を積んだ職員が確保されることにかかっていると、結論付けている。

「この分野での高度習熟化はいまだに発生的段階にある。現在、発展途上国において習練をつんだ人間の極端な不足がみられる。とはいえICAとユネスコの援助によって次第に変化が起っている。……物理的保存は文書館運営や記録管理と同じく、文書館の将来にとって重要である。此ら文書館専門職における三つの組合せこそ重要な相互依存関係なのである。」

注

- (20) Kathpala, K.P. Conservation and Preservation of Archives. UJISLAA 4-2 1982
- (21) Kathpala, K.P. Conservation and Restroration of Archives: a Survey of Facilities. PGI 78/WS/14 UNESCO 1978
- (22) The Society of Archivists and the Institute of Paper Conservation. International Conference on the Conservation of Library and Archive Materials and the Graphic Arts. Abstracts and Preprints. Cambridge 1980 この会議でなける四六の報告論文のテーマについては安澤秀一「保存管理国際会議ケンブリッジ一九八〇」史料館報37昭五七を見られたい。

また安澤秀一「史料保存利用施設における保存修復管理職」資料保存国際セミナー・金沢工業大学ライブラリーセンター昭和五九 Yasuzawa, S. The Conservators and Restores in an Archive Repository.

International Seminar on Preservation, Conservation and Restoration of Materials, KIT, Library Center. June 1984

四 史料館Ⅱ文書館建築の問題点

史料保存利用施設としての史料館Ⅱ文書館の目的や機能に適した建物を設計し建造することは様々な問題点を抱えている。文書館国際評議会 ICA は既に其のハンドブック・シリーズ第一巻に、ミシェル・デュシャン氏の「文書館建築・備品」一九七七を刊行して注意を喚起していた。⁽²³⁾ UJISLAA の特集号においても此の問題を取あげている。⁽²⁴⁾ 筆者は都市計画建築に関するユネスコ・コンサルタントのベルナルド・ファークニ氏である。ファークニ氏は論文の冒頭で次のようにいう。

「文書館建築というものを説明するのは大変むずかしい。何故ならその建物の中で行われる業務活動というものが、専門家以外には余りはつきりしていないからである。執務場所・工作室ないし書庫というものは他の公共建築物と比較しようがない。とはいえ国家のためであろうと一企業のためであろうと、文書館建築物というものは公共目的に奉仕するものである、ということが強調されねばならない。」

そこで文書館建物を計画し、設計するとなると、建築家は文書館員と話あわねばならない。何が必要かを取決め、

積算することは必ずしも容易ではないからである。加えて場所の選定の問題がある。設置場所について決定的に適切な場所という基準は与えられていない。また環境や技術・経済および計画の文化的政治的含みについても配慮しなければならないであろう。

〈文書館建物の特殊性〉

文書館には三つの主要な目的がある。a 文書を物理的に保存すること、b 文書を仕分けし、必要ならば修復作業を行うこと、c 利用者サービスを用意することである。それ故、三つの異なる建築空間が必要となる。a 保存庫、b 作業室、c 公共空間。また事務室も必要である。

「保存庫は文書館建物の中核であり、書類の物理的保存のための保管空間である。書類は普通書架にならべられた書棚に配置される。夫々の書架は三〇cmの奥行のある両面の棚からなる。この書架は相互に八〇cm幅の通路をはさんで置かれる。書架の長さは一〇mを超えないようにし、書架と直角になる通路は書類運搬手押車が通れるだけの広さを持たねばならない。書架に直射日光が当たらない工夫も必要である。書架の高さは天井の高さによってきまる。約二・一五mという所であろう。」

かくして建物の骨組は書架設備の規模によって左右される容積を確保しなければならない。骨組の一般的なタイプは最小面積となるような耐荷重構造となる。これは別の利益を伴なう。つまり区切りの移動性、対地盤剛性、定型組立工事、低価格素材を追求できるからである。書架荷重は平方米当り一〇〇〇kgを考慮したい。保存庫はふつう区切り壁と耐火扉で二〇〇平米毎に分けられる。

「建築家にとって最大の難関は必要な書架延長を計算することである。」

つまり増大する文書の収集物がきちんとした保管状態にない時や、中継取扱体制が欠けている時とか、保存さ

れるべき書類の年間発生量を概算するための統計のない時など、部分的にしか推定できないことにかかわっている。此の状況は開発途上国では普通であり、アーキヴィストという保存すべき書類を決定する仕事を果す者よってのみ解答が出されるのである。

「普通、書架延長1kmについて一七〇平米の保存空間を必要とすることが知られている。マイクロフィルム・磁気テープ・地図・設計図の保存には、特別な保存庫が必要となる。」

文書館業務の全てが収束する所が配分センターである。閲覧室に出納されたり、工作室その他で修復されたり、複写されたりする書類は、その正しい位置に運ばねばならない。

作業場は書類の取扱い、仕分け、修復に必要な全ての空間を含む。主要なのは仕分け・封筒入れ作業室であり、ほかに燻蒸室、断裁処分待機室、製本室、箱詰め室、マイクロフィルム複製室、修復工作室がある。こうした空間の規模はそこで働く人数や使用される機器の数量と形に依存している。空調施設は書類の修復・燻蒸・複製に使用される化学薬品から出る塵埃や不純物を出来る限り濾過するために必要である。

〈公共空間〉

文書を見たいと思う学生・研究者その他誰でもが、まず閲覧室に行く。閲覧室は明るく、かつ通気の良いかなり大きな部屋（一人当り五平米）を必要とする。文書の検索は、保存されている文書の量で規模のきまる目録室で行う。アーキヴィストの座る参考相談室は閲覧室での相談と両方を兼ねる。テーブルコーダーやタイプライターを使用する特別な研究者のための防音室やマイクロフィルム資料を閲覧するための小部屋もある。そうした小部屋は閲覧室に隣接していなければならない。普通、入口広間は大きくとり、閲覧室で禁止されている喫煙や会話をして気楽に過したり、また受付や展示室、問合わせといった広報的なことをする場所となる。

映写装置のある講義室と集会室には録音装置を備えておく。

館長・アーキヴィスト・会計課などのためにも部屋を確保する。

〈文書館中核の機能〉

右にみた様々な空間部分の間の機能的な結びつきというものは、二つの流れを連結する。a は文書の流れ、b は公共の流れである。

文書の流れを見ると、文書館への移管物はまず荷下ろしされ、ついで移管物受領室におかれる。省庁と文書館との間に、中間取扱いセンターがあるかないかによるけれど、移管物は燻蒸室に入れられ、それから仕分け室に行く。そこから断裁室へ行くか、あるいは書類入れに入れたり梱包されたりされ、ついで保存庫へ入れられる。閲覧用文書は配分センターを経由して閲覧室へ行く。閲覧後は同じ道を通って保存庫へ戻される。複製される文書は工作室へ行き、修復され、ラベルが貼られると、保存庫に戻って行く。複製される文書は、マイクロフィルム化されるために保存庫から、また利用者が複製を欲しい時には閲覧室からやってくる。

来館者についていえば、三つの主な道がある。a 入口広間―受付―目録室―閲覧室、b 入口広間―展示室・講義室・集会室、c 入口広間―受付又は秘書―事務室。

あらためて配分センターの役割をいえば、それは閲覧者の要望をうけとめ、閲覧室・保存庫・仕事場との間での全ての文書の動きを調整する文書館の中心なのである。

〈建設地の選択〉

建設地の選択には利用者の便宜、つまり学生・教師・研究者たちの来館を考える機能的観点と、史料保存の物理的条件を考慮することの何れもが大事である。また建物は移管する本体つまり記録が生産される省庁など行政機関

から余り離れていない所が望ましい。

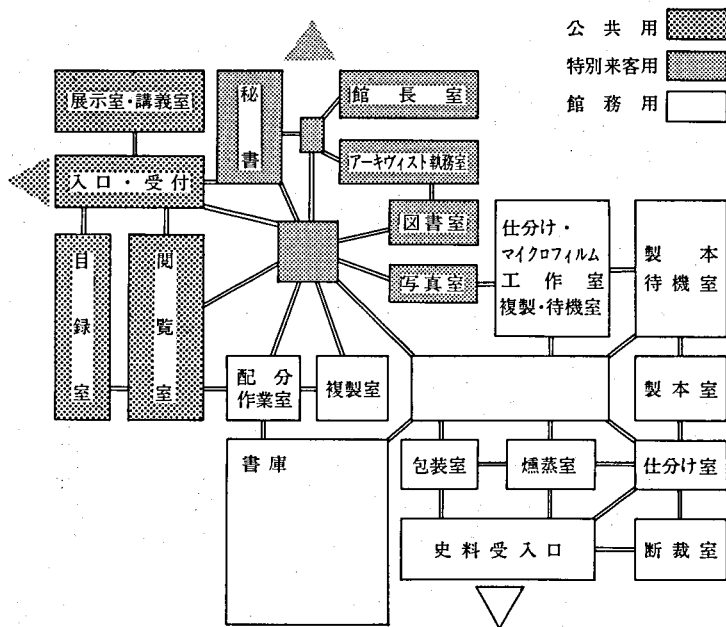
気象条件も考慮されねばならないが、通気が良くても、風が塩分や湿気を運んでくるような所は避けねばならない。太陽は文書保存にとって敵であるから、これも比較的に安全性を求めたい。洪水の危険とか戦闘目標とも避けねばならない。

〈建築後の問題〉

文書館建物は将来の保有能力拡大の余地を考えておく必要がある。階上への拡張は避けるべきである。何故ならば基礎への異なる圧力は建築構造を歪めるであろうし、またその建築工事の行われている間、屋根から水漏れがあるからである。

〈空調施設とエネルギー節約〉

文書を保存する物理的条件は温度二三度C（一七―二五度の範囲）と、湿度五五%（四五―六五%の範囲）である。此の状態を一定に保つために空調設備が導入される。年間を通じて温・湿度の高い国では、空調設備が必須である。ほかの場合には生物気候学的設計を実施することができる。つまり建築設計の際に、高絶縁性素材をうまく使って湿度・温度調節を建物に組込むことである。二重屋根・二重壁・ブラインドシャッター・テラスは日光の影響を抑制するし、通風を良くして温度を下げる事が出来る。熱損失・寒冷損失を減少させて保温や空調設備の運転を低く押えることも出来る。空調設備の不利点をあげれば、初発費用の大きさは別としても、維持費用がかなり掛るといふことである。更にそのかなり複雑な技術（中央集中管理）の故に開発途上国においては特に維持と修理が困難となる。



史料館＝文書館建物機能別配置システム図
 (原図ファー1論文「文書館建物の設計」UJISLAA 4-2による)

〈建物の設計と工法〉

文書館にとって、高層建築が妥当かどうか疑わしい。この種の構造は工業化した国においては土地費用を節約するけれども、逆に複雑な機械（昇降機など）を必要とするし、増築が困難である。低層建築の方が費用が少なくすむ。管理は容易であるし、機械設備は僅かですむ。それ故、ありうべき管理条件や文書館サーヴィスの程度や、保存すべき文書の量を配慮しながら、高層にすべきか、これまで通りの建物にするかを考えるべきである。

右に概略を紹介したファーユ氏の議論は、次の様な点を指摘して結びとしている。

「文書館建物の設計は夫々の国で行われ、適用されているシステムと結びついていることを強調しておかねばなるまい。中間取扱いセンター設置の可能性、行政の地方分権性の程度、文書保存と利用サーヴィスに当る職員の資質の程度と人数は、建築上の問題解決において異なる道を選ぶ事になるであらう。

文書館サーヴィスは時として図書館・文献情報解析センター・博物館との総合的なものになることがありうる。その場合、文書館サーヴィスはたとえ設備を共同で使用するとしても、管理上の独立性を残すということが必須である。

横並び的な発想を避ける為に、環境についての詳細な分析という手法で、立地上の制約と可能性を、注意深く企画立案の中に取り入れねばならない。」

日本において県・市といった地方自治体における文書館の設置がようやく進み始めた今日でさえ、なお文書館のイメージが区々であるため、とくに建物についてはファーユ氏が指摘するような、連結路を中核にして保存空間・公共空間・業務空間が設定されるという考え方を設計者に理解してもらうことが困難である。埼玉県文書館のよう

に成功している例もあれば、高層の雑居ビルに押込められそうな所もある。文書館とは永久に保存する価値のある紙記録やマイクロフィルム・磁気テープを格納する所であるという肝心な事が忘れられているようである。火災対策や湿度・湿度調節が等閑にされては、保存の意味が失われてしまうことに気がつくべきである。世界中のアーキヴィストを啞然とさせた文化庁所管の「国立フィルムセンター」の焼失は、最悪事例の教訓となるであろう。

注

ment. ICA Handbooks Series Vol. 1 1977

- (23) Duchein, Michel. Archive Buildings and Equipments. ICA Handbooks Series Vol. 1 1977
(24) Faye, Bernard. The Design of Archives Buildings. UJISLAA 4-2 1982

五 視聴覚史料館 — ソ連とイギリス —

文字と紙などの記録媒体との組合せによる記録の外に、非文字と記録媒体の組合せによる記録がある。例えば地図・絵図とか楽譜とか、あるいは絵画もそうである。こうした伝統的な保存対象に加えて、一世紀以上前の発明品である銀板写真に始まり、静止像だけでなく動きまでもをフィルムに記録することが一般化した。やや遅れて蠟管に音声を記録することが始まり、ワイヤーから磁気テープへと変化してきた。音声・図像・記号などまで一本のヴィデオ・テープに記録することまでも可能となった。こうした記録する手段の変化は史料保存利用施設における保存対象の拡大をもたらした。とりあえず本節ではこの問題に関する二つの国の対応を紹介してみたい。

へソ連

UJISLAA 4-2 にソ連の O・A・ミハイロフと T・N・ムサトワの連名で「ソ連における視聴覚史料

館」という論文を寄せている。⁽²⁵⁾ 論文の冒頭は勿論当然レーニンへの賛歌から始まる。

「視聴覚史料やその他の非伝統的な記録の国家的保管における収集と組織化および継続的な利用を準備することは、ソ連文書館サーヴィスの主要な仕事の一つである。その基礎は文書館の再組織化と中央化に関する一九一八年六月一日のレーニンの布告であった。このレーニン布告はソヴェエト国家に帰属した全ての記録の収集について総合国家文書館のための道をつくりあげた。」

一九二〇年代、映画・写真産業の国有化の法律が制定された。国家映画・写真文書館の始まりである。一九二六年二月のソヴェエト政府布告は、総合国家文書館による映画・写真記録の受入れを、製作された日付から五年後とした。そして一月に中央写真・映画文書館が確立する基礎となり、一九三〇年に国家映画・写真・音声文書館の設置、一九三二年音声記録中央国家文書館の創設が見られた。最近は次の様になった。

「ソ連邦国家文書館法のもとで、ソ連邦大臣評議会決定にもとずいて、視聴覚記録の中央集約的国家保管は、ソ連邦映画・写真記録中央国家文書館および連邦音声記録中央国家文書館によって行われるということ、一九八〇年四月に承認した。モスクワとレニングラード両市のフィルム・写真記録中央文書館という最大のものと共に、同じような中央文書館が地方（地域・県・都市）の文書館として、全ての連邦共和国に設立されるべきである。フィルム・写真資料のある程度の量は科学技術文献資料文書館にも保管されている。」

こうした収集・保存のシステムによって膨大な写真・フィルム・録音が存在している。古いものでは一八五四―五年のセバストポリ戦争、一九〇五―七年革命およびモスクワの風景写真があるという。映画記録では一九〇八年のトルストイ、一九一二年のセドフの極地探検、一九一三年のレービンその他の美術家を始め、一九一七年の一〇月大革命におけるベトログラードとモスクワの、あるいは内乱のニュース等々がある。トルストイの声の蠟管録音

や一八八二年のミクルコ・マクライによる太平洋諸島部族の方言録音もあるという。勿論レーニンの声の録音一九一九年もある。

視聴覚史料の場合も、文字×紙史料と同じく保存が中心課題となる。その湮滅をさけるために、記録の登録・目録・所在を明らかにしておかねばならない。同時に利用に供するための検索手段という一連の組織的技術的手段が準備される。また物理的保存の諸条件を調べねばならない。

「ソ連邦の視聴覚記録文書館のほとんど全ては、独立して独自の建物・保管庫を持っている。『国家文書館保有フィルム・写真・録音記録の基本的取扱規則』には、国家文書館に新たに受け入れられた全ての視聴覚史料はその工学的条件を検査され、修復や物理的保存ないし予防的取扱い（加えて安定化、洗浄、カビ除去の取扱）を受けることが決められている。予防的取扱とは小さな機械的損傷を直し、写真検査官は化学的写真処理の最適材料（ソヂウムシオスルフエイト、銀塩）を調べ、生物的損傷（カビ）に対する保護を行う。『国家文書館特別貴重物複製物予備貯蔵品製作規則』は、記録に含まれる情報の保存を白黒ハロゲン銀フィルムで行うことを定めている。」

可燃性フィルムやテープの、不燃性化も厳しく言われている。その一連の手続きはこうである。

- a 文書館に保管されている全てのニトロ素材フィルムと録音記録の所在確認
- b ニトロ素材フィルムと録音記録の余分な写の所在確認とそれらの直接破棄
- c ニトロ素材記録利用の制限
- d ニトロ素材記録容器に赤ペンキでN、または可燃性と書く。
- e 適切な温度・湿度（一〇度C以下、四〇〜五〇%）を保つ貯蔵用小区画へのニトロ素材記録の隔離

f 特別重要史料のトライアセートフィルムへの転写、ニトロ素材記録の破棄

g フィルム・写真・録音の技術的狀態の検査とニトロ素材の安定性調査

カビもまたフィルム保存上の大敵である。これを防ぐには温度を一〇度C以下、相対湿度を五〇―六〇%に保つことである。不規則な温・湿度変化は避けるべきである。カビ駆除のための薬品処理にはグアニジン誘導体での水洗処理が有効である。これは記録が白黒であろうとカラーであろうと、その物理的機械的ないし印刷的性質を変えることがない。カラーフィルムの保存に関する研究に化学的方法や電算機技術が大いに活用されていて、成果は著るしいものがあるようである。

最後にこうした業務に携わる専門家の問題に触れている。

「視聴覚記録の国家的保存の拡大は、国立モスクワ歴史・文書館研究所で高等教育をうけた専門歴史家とアーキヴィストによって遂行されている。その研究所はソ連邦の首席文書館当事者によって誘導され、同意を得た科目と教育手段を有している。非伝統的記録に対する業務はソ連邦の文書館サーヴィスにこれまでなかった分野の素養をもつ専門家をもたらした。彼らはフィルムやラヂオ技術者・番組担当者・数学者・物理学者・化学者および生物学者を含んでいるのである。」

注

(25) Mihajlov, O.A. and Musatova, T.N. Audio

-visual Archives in the USSR. UJISLAA4-2 1982

なお文書館国際会議 ロンドン一九八〇においてソ連

◎ V.V. Khmeleva 女史は The Media and Archives と題する報告を提出している。これは視聴覚記録の活用を論じたものである。

ヘイギリス

大英記録協会 British Records Association は一九八二年の年次大会のあと、視聴覚記録に関する実務委員会を設置して意見を纏めることとした。報告は一九八三年六月、会員に配布された。⁽²⁶⁾ 課題とされたのは、視聴覚史料分野において素材の急速な劣化、史料の取得・保存・目録作成・利用についての高費用などが差せまった問題となったからである。例えばBBCはその放送番組全てを保存していないが、音響番組の大部分については大英録音研究所⁽²⁷⁾ (現在の国立音響史料館)とともかなりを保有している。しかし国立フィルム史料館の財源は僅かに特別なものを購入するだけしかない。そこでヴィデオテープの耐久性について大英記録協会として研究を進めることを勧告したのである。またフィルムやテープだけでなく、関連する成文記録も一緒に保存されるべきことが強調された。民営テレビ会社や地方放送局に対して史料館Ⅱ文書館設置の緊急な必要性を訴えるべきであるともいつている。更にアーキヴィスト協会や博物館協会に対しても視聴覚記録を取扱う人々の研修課程の準備をするように働きかけるべきである。こうした動きを以下に紹介して、参考に供したい。

視聴覚記録実務委員会は会員のほかに、専門的知識を持つ人々を加えている。委員長には社会科学研究院のD・E・アレンをすえた。⁽²⁹⁾ 外部委員の所属を列挙すれば、大英大学映画評議会、ATV会社、帝国戦争博物館、国立文書館、⁽³¹⁾ 議会録音史料館、⁽³²⁾ リーズ大学、大英録音研究所、国立フィルム史料館⁽³³⁾ である。委員達は討議の過程で視覚史料と聴覚史料とを分けて考えることを試みたが、最終的には一体として扱う方が有益であると考えに至ったという。さて最初の質問はこうである。

「将来の研究にとって歴史的価値をもつ史料を収集し保存するという基本的な文書館目的に対して、適切に貢献するにはどうしたら良いか、視聴覚史料の産出量は計り知れず、より一層巨大になっている。如何にして此の

洪水に対して限られた保存庫を対処させるか。」

アーキヴィストにとって馴染深い問いである。ただ視聴覚史料の場合、史料の特質にもとずいて、経費支出の方向は機器の購入と物理的保存経費に大きく傾いているようである。しかしなお収集されねばならない歴史的価値のあるフィルムが企業の倉庫の中に眠っていたり、あるいは倉庫空間をあげるために捨てられることが起るのである。あるいは広告用フィルムは一時的なものと考えられているが、疑いもなく、将来の社会史家にとって第一級の史料なのである。それらを探し求め保存するための高額の費用を正当化するための充分な理由をたてねばならない。

イギリスでは中央政府直轄の大規模施設つまり国立フィルム史料館と帝国戦争博物館および国立音響史料館が頂点にあり、ついで中間にイーストアングリアフィルム史料館、北西フィルム史料館、スコットランドフィルム史料館が位置し、ならんで国立海事博物館、国立動力機関博物館がある。また民間の大英航空文書館やシェルフフィルム図書館⁽³⁷⁾などがある。これらの下に第三層を形成するフィルム所蔵の地方や企業の史料館⁽³⁴⁾、文書館やフィルム図書館⁽³⁵⁾が存在する。このようにピラミッド構造のネットワークができていのである。視聴覚史料の場合も同様である。

現在、国立フィルム史料館はその収集の中に五〇〇本以上のテレヴィ番組を有している。その全てが原則的に研究者に公開されている。選択委員会はテレヴィ会社の放送産物を実質的に調査し、一全体の放送産物（質という考え方にかかわりなく）の代表的事例、二今日の生活と社会の証拠、特にマスコミで取りあげられるようなものの継続的保存と利用を強調している。加えて夜の主要報道番組は毎日記録されている。いくつかの番組を割愛しても、ほとんどを購入しなければならないし、そのための史料館財源は不足している。

最近、コミュニケーション論専攻の学者達は選択的保存の政策を放棄するように声を大にして訴えている。つまり放送産物の全面的保存が要望されているのである。その声は低価格のビデオカセットの出現に助けられている。

技術的には光ディスクの実用化による保存空間容量の節約がますます可能である。ただしそのための機械設備の費用は相当の負担になるであろう。耐年性にたいする信頼性はいまだ充分とはいえない。つまり一定年数後の転写措置による保存延命が必要なのである。

難関は著作権の問題にある。この問題の解決は政府の仕事である。

さて史料保存利用施設としての史料館Ⅱ図書館は成文史料であろうと視聴覚史料であろうと、その保有する史料の正確迅速な出納業務を遂行しなければ意味がない。そのための道具が検索手段としての目録や索引類である。内部での史料管理のみならず、外部の利用者Ⅱ研究者にどういう史料が公開されているかを知らせることにも使える。報告者は目録作成について、次のように論じている。

「目録作成は幾つかの問題を胎んでいる。小規模史料館では人手が足りない。もっと決定的なのは旧来の図書館式分類法が全く不適切であるということである。それにもかかわらず、視覚・聴覚の二分野の特別な性格に適した標準的方法は、フィルム史料館国際連盟や音響史料館国際協議会が方法の標準化の為に努力しているけれども未だ確立していない。もちろん夫々の史料館の内部では自身の目録作成の手続きを確立しようとしている。しかし非常に特異性を持っていたり、あるいは非常に丁寧に丁寧すぎたりするので、ただちに模範としかねるのである。その中でBBC音響史料館において長年かけて作られた目録は見所がある。ともあれより入念な考え方とキーワード索引とを妥協させることはやめている。原史料の拾い読みという非実用的な方法よりも、まだしも詳細な主題分野の方が特質として残るであろう。」

いずれにしても作成された目録は、成文史料の目録と同じように、国立史料登録局 National Register of Archives に寄贈されることになる。

物理的保存と公開性との間の拮抗は特に視聴覚分野において強い。史料は痛みやすく、見るための器具は費用がかかる。複写の数を増やすことはかならずしも解決にはならない。フィルムの複製品は代を重ねる程、質が悪くなるからである。著作権の問題も生じてくる。商業的複製と研究的複製の間のどこで一線をひくことができるのであろうか。「デザイン・演技・演奏保護の著作権に関する法律改正」は僅か許りの進展を見せた。

視聴覚史料を物理的に保存する問題の困難さをはつきり認識する必要がある。可燃性ニトロフィルムの膨大な量が安全に保管されることのないままに放置されている。難燃性のフィルムに転写することを主張する者もいれば、保存空間の節約も考えて磁気テープに転写することに関心を寄せる者もいる。カラーフィルムの褪色も深刻な問題である。

問題が山積する中で、視聴覚史料館で働く人々に対する適切な研修が必要とされている。現在のアーキヴィスト養成課程では視聴覚史料の分野について無知のままである。図書館協会も余り関心を示していない。此の隙間を埋める事が必要である。

以上、簡単に紹介してきた様々な問題を、報告書は最後に七点に要約している。

- 1 収集活動の調整における大英記録協会の役割
- 2 フィルムやテープと関連する成文記録の一体的保存の重要性
- 3 民営テレヴィ会社・地方放送局に対する永久保存政策の必要性啓蒙
- 4 ヴィデオテープの耐久性向上の研究
- 5 利用者に対する公開閲覧の進展
- 6 視聴覚史料アーキヴィストの養成

7 視聴覚史料に関する著作権問題

注

- (26) British Record Association, Report to Council of the Working Party on Audio-Visual Archives. March 1983
- (27) British Institute of Recorded Sound (National Sound Archives)
- (28) National Film Archives
- (29) British Universities Film Council
- (30) Dept. of Film, Imperial War Museum
- (31) Public Record Office
- (32) Parliamentary Sound Archives
- (33) National Film Archives
- (34) National Maritime Museum
- (35) National Motor Museum
- (36) British Airways Archive Library
- (37) Shell Film Library (Archive Collection)

六 電算機と史料館Ⅱ文書館

イギリスのバブリックレコードオフィスPROのマイケル・ローバー氏は「新情報技法と文書館」と題する論文をUJ J I S L A A 4 2 に発表した。⁽³⁸⁾ ローバー氏は文書館国際会議ロンドン一九八〇では「文書館の学問的利用」を報告し、⁽³⁹⁾ 一九八二年のアーキヴィスト協会雑誌には「高度技術媒体：視聴覚・機械可読記録の物理的保存と保管」を書くなと活躍の目立つ人である。⁽⁴⁰⁾ 論文冒頭にこうのべている。

「アーキヴィストと記録管理者は、新しい情報技術を利用して他の情報専門職にくらべて、遅れを取っていない。その理由の中に文書館専門職に携わる人の生得的な保守性をあげてもよいが、遅い反応には実理的な理由もある。書誌データの中央集中化と結びついて図書館員に提供されているような電算機化による書籍購入・目

録化・図書館間相互貸与制度を実現するための財政的理由では、文書というものの性質上、アーキヴィストに対する財政的援助を得にくくさせるということである。電算機利用のメリットは文書館の場合、図書館ほどはないといえよう。」

欧米諸国では、官庁現場の現用記録が文書館に移管されて永久保存の対象とされる前に、中間に半現用記録保管のための記録センターを置き、半現用記録からの選別に時間をかける制度が普及している。⁽⁴¹⁾ 欧米諸国では記録センターを文書館の一部であると考えており、ローバー氏はこの記録センターこそ電算機を利用する所であるという。

「文書館の管理とその保有物の物理的制御への電算機応用は、文書館そのものよりも記録センターの方がより普通であろう。記録センターにおける膨大な記録の取扱いは、倉庫業における膨大な品物の取扱いと、原理的にはそれほど違いがない。こうした自動化の一部分として、記録の閲覧、保有物への的確で最新のリストの作成、記録の確認と格納場所の告知、保存庫内の効率的な使用、文書の評価・処分ないし移管といった作業のための正確な日付の自動的通知の準備などに、電算機を利用することが可能である。更に一層の熟達は、作成部局への記録の貸出し、利用後の記録センターへの返却とか、期限切れ記録を自動的に請求するとかを可能にする。この分野でのもっとも有名な応用は、フォンテンブローにあるフランス国立文書館現代文書館部のPRIAMシステムと、アメリカ合衆国の国立文書館・記録センターのNARSISシステムである。PRIAMは第三段階で登録目録を作成し、主題検索を行う手段となるであろうけれども、今の所、PRIAMもNARSISも個々の記録というよりもむしろ群単位で操作されている。」

この指摘は大事である。日本での利用者の要望には、識者を自認するある種の人によってふりまかれた電算機を使いさえすれば、個々の史料本文が必要なだけ光ファイバー送信によって直ちに利用者の机上に送られるという幻

想がはいりこんでいるからである。アルファベットを使っている国でさえ、『文書群』という単位に押えることで漸く検索できるというのに。まして漢字仮名まじりの、しかも活字化されていない手書きの原本をとれば、崩し字で書かれている虫食いだらけの史料本文を一体どうやって誰が電算機に入力するのであるうか。近い将来、光ディスク利用による図形認識入力が可能であるとしても、どういうシステムプログラムで検索し出力させるのであろうか。利用者の側にそれだけの電算機を制御する高度な知識と機器をまず普及させねばなるまい。⁽⁴⁾

ローバー氏はバブリックレコードオフィスPROOでのシステムを説明している。

「PROには近代省庁記録に使われているPROSPECというシステムがある。これは電算機介助型といった方がよい。最初に群もしくは層水準で操作される。通常のシステムにない利点は新しい群や層が公開されるか、あるいは追加物があるといった場合に最新の情報を提供するのに役だつ。文書保有物の管理的制御にはアメリカ合衆国議会図書館手稿部のMRMCIIシステムと、イリノイ大学のPARADIGMシステムがある。PROSPECと別に、PROのキユウにある新館の利用者の相談用にPROMPシステムを操作している。記録の請求は参照室の端末機で利用者によって打ち込まれ、確認後、適切な保存階に直接転送され、参照室に打出される。貸出された記録の返却は光学的検認機という手段で記入される。利用記録は保存され、様々な統計報告が自動的に作成される。システムは事務能率を二〇%向上させた。とはいえ一日当り一五〇〇点ないし二〇〇〇点の出納規模のあるキユウより低い利用率の場合、正当化されるかどうか疑わしい。スペインでは国中の図書館利用者の研究テーマを登録し、分析するために電算機を利用している。」

イギリスでも一九六〇年代に電算機利用が考慮された時、個々の文書情報に接近する手段となるであろうという期待が持たれた。しかしその水準での索引作成は多額の経費を必要とすることが証明された。更に人名・地名の索

引作成は比較的簡単であるけれども、主題索引の作成ははるかに困難であることが判った。いま使用されている NARSIAL、PROSPECT、MRMCMII、PARADIGMといったシステムは、群・層・塊といった単位での効果的な主題接近を可能ならしめている。イスラエル国立図書館も此の単位での電算機介助型接近を実行しているという。

ニューキャッスル大学電算機室でPROOのために作成された索引方式や、フランス国立図書館の電算機介助型索引作成方式は、個々のファイルあるいはフォルダーを単位として操作される。人名と地名に結びついて閉鎖的固定的分野という限られた範囲で、アルファベット順もしくは年代順に、ただし内部構造を少しも変換させることなく、処理するというきわめて単純な表示処理システムなのである。

もっと複雑な主題の内容が、いくつかの構成要素にもとずいて分析され、望ましい順序にならべかえられる置換システムは、アメリカ合衆国図書館・記録サービスによって開発され、州の図書館やカナダの図書館で採用され、使用されているSPINDEXシステムである。いまはSPINDEXIIIに改良されている。

書誌システムとしてはMARCCがある。MARCCはアメリカ議会図書館手稿部のMRMCシステムの原型となつたシステムである。PROSPECTの原型はイギリス電気工学研究所のINSPCである。シェフィールド大学で開発されたASIシステムは、イギリス外務省および連邦省で現用記録を管理するのに利用されている。スコットランドPROOは大英図書館のPRECSI索引システムを実験し、図書館に応用できる限定的システムを開発した。STAIRSという端末システムとその提携ATMS典拠処理システムも図書館で使用されている。博物館文献資料解析協会(前IRGMA)のGOSシステムは、国立海事博物館の図書館と大英南極調査図書館で応用的に利用されており、アーキヴィストの間で広範な関心の的となっている。アメリカのスミソニアン研究所のSELGEM

システムも文書館応用の模範となっている。

中央集権的統合的文書館システムを持つとうとしないイギリスやアメリカのような国々においては、努力の重複や限定的簡便方式のシステムを作る傾向があった。例外はSPINDEXである。それというのも利用者グループであるSPINDEX利用者網(SUN)がシステム利用と発展について援助と協力を惜しまなかったからである。とはいえSPINDEXの存在は合州国における他の文書館のシステム作りの障害にはならなかった。アメリカのアーキヴィスト協会は文書・手稿のためのデータ基準を促進する全国的情報システム作成委員会と、データ交換方式を作りあげた。

イギリスでは国立史料登録局という定式化された検索方式にもとづく中央情報システムが機能しているので、データ交換方式の必要性については緊急性がないと考えられている。とはいえアーキヴィスト協会は個々の文書館のデータシステムを受入れることのできるような電算機化システムの発展を考慮しようとしている。一九七五年に刊行された「主題検索分類計画」は文字・数字混合表記であるため、今では一般的に使用するには余りに固定的でありすぎる。語彙制御についての難点が指摘されたりした結果、ごく最近これまでのシステムの見直しが進められ、データ作成基準を作ろうという動きが強化されている。

国際的には電算機応用についての情報交換の機会がICAの自動化委員会によって準備されている。

これ迄要約的に紹介してきた動向を見すえながら、ローバー氏は文書館と電算機のかかわりあいの将来について、次のように結論づける。

「最近の技術的向上と、文書館での電算機応用の先駆者たちの得た経験にもかかわらず、多くのアーキヴィストと記録管理者はなお新しい情報技法に適応することをためらい、技術的知的展開との双方での一層の研究と

発展が完成するまで、いままで通りにしていたであろう。これまでに得られた経験にもとずき、将来もっと適切なソフトウェアが提供されるであろう。しかし光ディスクやデータ入力費用の軽減があるとしても、既存の検索手段への遡及におよぶ転置の問題は依然として意欲を失なわせる困難な問題として残るであろう。」

「二つの知能上の問題がある。一つは語彙制御であり、もう一つは利用者請求である。検索手段の電算機化は主題検索における語彙制御についていくつかの手段を用意することが一般的に同意されている。しかし極度に不統一な原記録での用語使用と、固定的な主題用語集との間のどこに、制御基準が存在しているかについては、必ずしも一般的に同意を得ていないのである。PROSPECTによるPROでの経験は次のことを示唆する。つまり主題記入と閲覧請求の基準が全く同じであるかのように、しかし一般的用語集の制御された階層性のなかで、自動的に最善の妥協を行うということである。とはいえこうした方法が階層性のある群もしくは塊よりもずっと低い水準で機能するであろうし、図書館の総合索引もしくはデータベースにとつての基礎として提供されるということを示しているわけでもない。最近の研究は主題検索における伝統的「出所原則」が主題の正確な「内容索引」よりもずっと効果的に図書館利用の必要を満たしていることを示している。それゆえ電算機依存システムを導入するより、むしろ伝統的なやり方での電算機介助型検索システム作成に集中する方が、はるかに好ましいであろうということになる。」

注

(88) Roper, Michael. *New Information Technology*

and Archives. *UJISLA*4-2, 1982
(89) Roper, M. *The Academic Use of Archives*. ICA
IX London 1980

(40) Roper, M. Advanced Technical Media : the Conservation and Storage of Audio-Visual and Machine-Readable Records. Journal of the Society of Archivists Vol. 7 No. 2 1982

(41) Cook, Michael. Archives Administration - A Manual for Intermediate and Smaller Organizations and for Local Government. Win Dawson & Sons Ltd. 1977 筆者は一九八四年九月、ボン近郊の「記録センター」を訪れ、その広大な敷地と建物に一驚

七 史料保存利用施設の将来的展望

本稿の二から六にかけて、その概略を紹介してきたUJISLAA 4-2の史料館Ⅱ文書館問題特集号は巻頭にフランク・エヴァンズ氏の総括的展望をおいている。⁽⁴³⁾成熟国も発展途上国もあわせて世界的規模での史料館Ⅱ文書館制度の振興に意欲を燃やし、実践してきたエヴァンズ氏の広い視野からの展望は示唆する所が多い。以下にその論点を紹介しよう。エヴァンズ氏はその論文の冒頭で次のようにのべる。

「現在の情報化時代におけるもつとも奇妙であり、かつ遺憾とする事柄は、記録された情報のいまもなお続くもつとも古い形態、つまりいずこの国民社会や如何なる人にとつても、もつとも適切にしてかつ特有のものである情報—文書—というものに対する理解が稀薄なままであり、そのために最低の利用しかされていらないということである。文書に対する知識と理解が欠落している理由は沢山ある。大量で多様な未刊行—それゆえ特別なものといえるが—情報をかかえこみ、この情報を公開しようと準備する業務について、出来る限り広く潜在

し、またコブレンツに建設中の連邦文書館を見学し、両者の連繫を体験した。

(42) 史料研究における電算機利用についてはベルギーのジエニコ教授の業績、「歴史学の伝統と革新—ベルギー中世史学による寄与」森本芳樹外訳をみられた。九州大学出版会昭和五十九年

の利用者に知らせることに失敗しているアーキヴィストも少なからずいる。嚴重に防備され、いかなる質問をも歓迎されざる侵入者とみなす官僚機構をぐりぬけなければならぬ場合もある。この思込みが固定化されてしまうと、アーキヴィストの業務を説明しようとするときの障害になってしまう。現代文書館業務に対する無知無理解は不幸にも情報専門職という仲間内に余りに広く拡まっており、そうした仲間内からもこうした考え方が第一番に強調されてしまうのである。」

史料館Ⅱ文書館制度の存在そのものがほとんど理解されていない日本の現状からみれば耳の痛い指摘である。公共の史料保存利用施設を欠いたままの明治百年のせいにするには余りにも日本の歴史編纂愛好熱は高すぎる。明治以来、ごく一部の識者が外国の史料館Ⅱ文書館制度の紹介に勉めてきた⁽⁴⁾。それが国民的理解にまで高まらなかったのは、乱暴ない方かも知れないが、上澄みだけをとり、基礎的学問情報に対しては恣意的選択的な精神的鎖国を続けてきた結果であるということが出来るかも知れない。近時にわかに広まった情報公開運動にしても、先例とした諸外国において、文書館・記録センターの存在を基盤としていることがほとんど無視されていた。

エヴァンズ氏は史料保存施設の歴史を要約して、次の様にのべる。

「少なくとも六千年前の粘土板時代にまでさかのぼることの出来る文書というものは、十八世紀末まで、それを作りだし蓄積してきた国家や宗教団体、企業、もしくは家の独自の財産と思われてきた。文書はもともとと権利や出来事を記録し、守ってきた故に、文書を作り出した組織集団の保管の下に保存されてきたし、他の目的のために他の利用者に閲覧させることは稀れであった。」

粘土板やパピルス卷子本からマイクロ形態・映画・電算機テープへと進む進化は、記録／文書の変化する物的形態ますます変化していく記録媒体の保存と修復という問題を伴ってのみならず、記録を作成する新しい技

術の適用とか縮小化とかデータや情報の凝縮といった事柄を示している。情報に関する政府の変化する役割は伝統的な文書サービスのより一層の発展を生みだしている。現代の政府文書館は「法律上の兵器廠」・「歴史研究の兵器廠」に、「公共サービス」という新しい局面をつくわえている。それが国民のための開かれた史料館Ⅱ文書館の創設なのである。今日何れの国家も国家自身の組織と構造を反映する国民のための開かれた史料館Ⅱ文書館システムを確立し、維持する基本的な義務をもっているのである。

「近代国民国家の成立と、史料館を利用して研究するという学問原則が歴史学の興隆にもなつて、かつてまず『法律上の兵器廠』とみなされていた史料保存利用施設を次第に『歴史研究の兵器廠』に変えていった。さらに現代国家は次第に情報を収集し、処理し、かつ生産する当局となつた。とはいえ保存されてきた『文書』の性格は次の様な意味を持っている。つまりその制度それ自身の起源・構造・機能および記録送達を記録していることに価値があるのである。文書は政府であれ非政府であれ、組織の歴史と発展に関する情報の一級史料であつたし、いまもなおそうなのである。その文書はつねに国民社会のもっとも重要な情報資源である。国民社会の記録された集合的経験と記録を構成し、かつ文化遺産の基礎的構成要素となるのである。それ故もっとも新しい独立国家にとって、学問社会の必要物というだけでなく、一般公衆にとっての必要性が強く認められることになるのである。」

史料館Ⅱ文書館制度の現代的役割とは単に引退した非現用の記録を保存し利用に供するだけでなく、もっと積極的な機能を持たねばならないと、エヴァンズ氏はいう。

「余りにも過剰に記録作成に新技術を導入している同じ政府が、一八世紀後半以来の行政慣行と手作業の記録保管業務にいまだなお執着している。最成熟国ですら新技法は伝統的書類仕事の量を目に見える程には減少させ

ていない。多くの場合、これらの新技法は既存の書類仕事に単に追加されているだけである。記録の物理的形態を含めて総合的な記録管理計画はかつてない程に必要性が増大している。現代的文書記録管理システムとサーヴィスの応用によってもたらされる節約と効率の増大というものは、その企画を正当化するだけでなく、もし政府が効果的に計画を導入し、社会経済計画を成功させるならば、ずっと素晴らしいものになるであらう。此の観点からすれば、もし政府自身の記録の中に存在し、あるいは提供し得る基本的発展計画と実行案のために必要とする適切な情報を、政府が既に保有していたり、あるいは提供出来るということを断言できる。彼らが直面している直接的な問題は、政府が作成し蓄積している記録という未刊の史料の膨大な量であり、知識上の、また物理的な制御によって効率的に処理するという問題である。」

知識上のまたは物理的な制御とはこういうことである。長期の保管を必要とせず、もしくは現在の業務を行う上でもはや必要でなくなった記録の組織的な処理、逆に長期的なものしくは恒久的な証拠ないし情報上の価値を持つ記録の公開を、総合的なものに改善することである。これが現代文書館運営・記録管理の仕事なのである。例えば手作業ファイリングシステムはまさに蓄積・検索の自動化システムの先行者であるが、また多くの手作業ファイリングシステムは現代行政要請をよりよく満足させるためには、特別な情報要請にも応じられる拡大的改定という現代化を必要としている。またアーキヴィストは印刷・未刊行の何れもの記録資料の保存と補修という問題についても、あるいはその他の専門的業務、つまり適切な保存施設的设计や建設とか、特別な教育とその計画を發展させることとかに至るまで、はば広く共通の関心事を抱いているのである。ここに国際的な知識の交流を必要とする理由が求められるのである。

短かいながらも要を得たエヴァンズ氏の総括は国際的な史料館Ⅱ文書館発展の方向を示して得る所が多い。ところで一九八一年四月にユネスコから派遣されて、日本の史料館Ⅱ文書館制度を視察されたハンガリー国立文書館のボルシャ氏はその印象記を、JSA(U・K) 7-5 1984・4によせている。⁽⁴⁵⁾そこでは総理府設置令の中の国立公文書館(こうぶんしょかん)という位置付けでしかなく、国としての史料館Ⅱ文書館法 Archives Actの欠如している不思議さにやんわりふれ、省庁記録の移管と保存への無制御と地方文書館の弱体さに現象する国としての史料館Ⅱ文書館システムと政策の欠如、アーキヴィスト養成計画の欠如、日本以外の国における史料館Ⅱ文書館に対する現代的関心と方法への無関心さを指摘し、それらを打破するためにも国際的な交流への積極的参加を求めているのである。ハンガリーのブタベスト大学における博士課程まであるアーキヴィスト養成課程の歴史と充実振りを考えれば、当然の感想といえよう。だがその発表誌(イギリス)から考えてもボルシャ氏の提言は、むしろ国の政治体制の違いを超えた史料館Ⅱ文書館制度の国際的共通性、つまり人類の文化的共有財産としての『文書』の保存利用施設振興という役割に基づくものであり、日本に対して史料館Ⅱ文書館学についての知的鎖国からの開港を促すものなのである。

一九八一年のボルシャ氏に引続いて、一九八三年七月にはエヴァンズ氏が来日し、実質上の各種史料保存利用施設の視察を重ねた。⁽⁴⁶⁾この時の視察報告書も近く刊行されるであろう。こうした国際的な文書館専門家の助言が、官庁記録作成の当事者である行政当局や史料保存利用施設関係者に、どの様な刺激を与え、反応を引起すのであろうか。本稿が目に見えるその反応の一つに過ぎないものになる事を願うものである。

注

(43) Evans, Frank B. An Archival Perspective. UJIS-LAA4-2 1982

(44) 戦前では三浦周行「欧米の古文書館」史林九一・二・四、一〇一―大正一三・一四があり、戦後では史学雑誌の特集、「各国の文書館一―七」七五―四一七六―七昭和四一―四二の連載その他がある。前掲安澤「イギリスの文書館法」註記を見られた。

(45) Borsá, Jan. Archives in Japan. Journal of the Society of Archivists (U.K.) 7-5 1984. 4

Yasuzawa, Shuichi. On the Local Repositories in Japan-Outside the National Archives of Japan. 31st. International Congress of Human Science in Asia and North Africa. Tokyo 1983

Yasuzawa, Shuichi. The Conservators and Restorers in an Archives Repository. International Seminar on Preservation, Conservation and Restoration of Materials. Library Center, Kanazawa Institute of Technology 7-9 June 1984

(46) 前掲安澤「ヒュンヌ博士を迎えて」および「ナネクノト文書館」

八 おわりに―史料館Ⅱ文書館学と日本古文書学⁽⁴⁷⁾

〈史料館Ⅱ文書館学とは史料保存利用施設において史料の整理管理と保存管理の全てに役立つ学問的実知的知識を体系化する学際的研究をいう。〉

明治初年にヨーロッパに学ばれた先学が、歴史研究の実証科学であることを支える基盤として古文書学 Diploma を日本に紹介されて以来、日本古文書学は独自の発展を遂げてきた。⁽⁴⁸⁾それは特に様式論において精緻な展開を遂げた都大路であった。とはいえ機能論や形態論・媒体素材論といった分野の開拓も提唱されて⁽⁴⁹⁾いる。

『古文書』を学術用語として用いる時、意志伝達的手段として文字を用い授受関係の明かなものという定義が強く

働らいた。元来、古文書は古記録・古日記・古帳簿・古系図などととも、文字によって固定化された社会的記憶という意味で、歴史研究の根本的素材すなわち史料であった。⁽⁵⁰⁾史料総体の一部であるにもかかわらず、古文書学という大道が確立したためであろうか、史料の諸他の部分はあたかも脇路であるかの如き印象を与えがちである。この偏りを修正しようとする動きが史料学であろう。⁽⁵¹⁾

ところで人間が文字によって出来事を記録するようになった時、最初に書きしるされたのは英雄の叙事詩でもなければ王家の事績録でもなかった。古代オリエントや初期ギリシャの粘土板（日本では木簡や漆紙）から知れることは、人名・地名や財物名とその数量の羅列である計算書であった。つまり人間と財物にかかわる組織の管理記録なのであった。西暦前二一〇〇年のウルの粘土板の集積所はまさに行政／経済史料の文書館的機能を果すものであって、よくいわれるような図書館ではなかったのである。⁽⁵²⁾粘土板は類別されて格納され、何時でも参照が可能であった。同じことは初期ギリシャのミネケーナイについてもいえる。⁽⁵³⁾組織と管理にかかわる呼出し可能な記憶装置としての文書館の機能は文字の発明とともに発生したのである。かくして偶然であれ、意識的であれ、集積され、保存されてきた原記録 Original Documents とその堆積所を Archives, Archive Repository と呼ぶのは、日本を除く世界各国に共通の公共的社会的学問的通念なのである。日本では現用公文書 Governmental Official Current Records のことを、外国では Archives と云うのであると思いたい人もいるようである。

ICA 文書館国際評議会が編纂中の「用語定義集」によれば、ヨーロッパ諸国では Archives (ドイツ語 Archiv, スペイン語 Archivo, イタリア語 Archivio, ロシア語 Archiv) を「年数・様式・媒体素材がどうあれ、個人としてであろうと、あるいは組織としてであろうと、公共もしくは私事にかかわる如何なる業務においてでも、その諸活動の表現として、作成したり受領したりした全ての記録 Documents」(フランスでの定義)のことであるという。⁽⁵⁴⁾と

ころがこれでは現用記録まで含まれてしまふ曖昧さが残るといふことから、アメリカ合州国と、特にカナダでは、記録 Records (カナダでの訳語は Documents) に対する語としての「文書」 Archives を「記録 records の作成に責任を有するもの」によつて、あるいはその記録 records を受取つたものによつて、あるいはその文書価値 archival value にもとづき、適切な文書館 archive において、選択もしくは選択抜きで、保存される非現用記録」という限定された意味を持たせている。

一九世紀ないし二〇世紀初頭までは、Archives 公的組織起源文書と Manuscript 私的起源文書とを区別していたが、其後は両者ともに国民的共有財産としての Archives 「文書」であると考へられてゐる。さらに従来の粘土板・金石木板・羊皮紙・紙などに記された可視文字記録の他に、直接に文字に依存しない記録、つまり図像・地図・写真・音声・映像・磁性媒体機械可読記録までも含む様になつてゐる。かくして記録された情報は Archival value にもとづいて永久保存の可否を判定され、永久保存の対象とされると、保存環境条件の整備された史料保存利用施設において、保存管理と利用提供のための検索に應じられるように、整理が行われる。その整理の出発点を支えるのが「[出所原則] the Principle of Provenance なのである。日本風にいへば伝来といふことにならうか。

一七九四年のフランスにおいて市民に開放された「国民の文書館」といふ意味付けは、一八五六年「国家の文書館」といふ意味付けに変化したものの、なおイギリス・ベルギー・イタリー・オランダとともに条件付き公開原則をとつてゐた。他の諸国、たとえばオーストリア、バヴァリア、デンマーク、プロシア、サクソニー、ロシア、トルコなどは非公開を原則とし、「特に認められた研究者」にのみ閲覧の特権を与えてゐた。こうした前近代的状況から、第一次世界大戦、第二次世界大戦を経て、次第に「特に認められた研究者」の優先性はすたれた。ところがこの前近代的特権を行使することこそが、近代ヨーロッパ風の史料館Ⅱ文書館利用の仕方である、という受止め方が

日本ではいまだ底流に残っている気配がある。

また同じ頃、歴史研究の様相も異なってきた。現代史や歴史研究における数量的方法の導入とか、社会史・国際関係史の盛行に伴って、歴史研究が素材とする史料の種類や範囲が広がった。⁽⁵⁷⁾ 加えてアジア・アフリカにおける旧植民地の独立は「国民の文書館」確立に大きな影響を及ぼしている。⁽⁵⁸⁾ あるいはそれまでの専門研究者の他に「市井の人々」の「原記録」接近の意欲も高まってきた。⁽⁵⁹⁾

こうした諸事情は、史料保存利用施設のあり方を一変させるものであった。様々な利用者に原記録を提供するアーキヴィストの業務や態度も変らざるを得ない。文書館国際会議 ICA ロンドン一九八〇において、報告者の共通意識に「変化」が底流としてあったことが思い起こされる。⁽⁶⁰⁾ 文書館国際会議 ICA ボン一九八四では、共通論題として「文書館に求められているもの…増大する責任性と限られた資源」がとりあげられている。これは前回の「変化」意識を受けて、新しい方向を模索するためであろう。⁽⁶¹⁾

日本では史料保存利用施設とそれを支えるアーキヴィストの必要度が全くといってよい程無視されてきたが、国際的水準に追いつく努力をしないままに放置するのであれば、文書館制度最低国という知的鎖国状態のまま、国際的に、とくにアジア・アフリカ諸国から全く孤立した自称「文化国家」という空洞に自らを閉じこめることになるであろう。史料保存利用施設が存在しなかったからアーキヴィストを必要としなかった、という悪循環から脱け出すためには、イギリスで第二次世界大戦後すぐに実行されたように、⁽⁶²⁾ まず良いアーキヴィストを養成することから始めねばなるまい。アーキヴィスト養成の研修課程こそまさに学術的な内容と体系をもつ史料館＝文書館学 Archives Administration, Archival Study, Archivology, Archivistics, Archivistique にならなければならないのである。その課程において、何をどのように学ばなければならないかを真面目に検討する必要がある。崩し字が読めさえす

ればよいとか、いま行っている方法で充分であるとか、あるいはいまさら外国から学ぶことはない、とかいうようなことであるならば、それは無知を自覚できない強がりではない。しかしこの態度こそ史料保存利用施設とアーキヴィストを支える史料館Ⅱ文書館学を否定する最強の武器となるであろう。

良いアーキヴィストとは「何よりもまず史料保存に力を尽すこと、そして最善の史料サーヴィスを行える能力を持つことであるとすれば、その支えの一つとなるのは『原記録』について最良の知識を持つことである。ここに「古文学」ないし「史料学」が「史料館Ⅱ文書館学」に寄与する役割が存在するのであり、また逆に良い「史料保存利用施設」が存在することによって、「古文学」ないし「史料学」がより高い発展に至る為の強力な手段を得ることになるのである（昭和五九年八月四日成稿）。

注

- (47) 本節は第一七回日本古文学学会大会研究発表要旨を補訂したものである。昭和五九年六月
- (48) 中村直勝著「日本古文学」上・中・下角川書店 昭和四六―五二、日本歴史学会編「概説古文学」吉川弘文館昭和五八、相田二郎著「日本の古文書」上・下岩波書店昭和二四
- (49) 佐藤進一著「古文学入門」法政大学出版局昭和四六、荻野三七彦著「古文学研究」名著出版昭和五七、上島有「東寺文書の伝来と現状について」京都総合資料館紀要八号昭和五五
- (50) 伊木寿一著「増訂日本古文学」雄山閣昭和五一
- (51) 中井信彦「社会史に関する覚書」思想六六三昭和五四、「日本古文学講座」全一―巻雄山閣昭和五三、岩倉規夫・大久保利謙編「近代文書学への展開」柏書房昭和五七
- (52) Posner, Ernst. Archives in the Ancient World. Harvard Univ. Press 1972
- (53) Chadwick, John. The Mycenaean World. Cambridge Univ. Press 1977 安村典子訳「ミケーナイ世界」みすず書房昭和五八

- (14) Duchein, Michel. Obstacles to the Access, Use and Transfer of Information from Archives: A RAMP Study. PGI-83/WS/20 Paris 1983
- (15) Lindroth, J. Contemporary History and Archives. 9th IC, ICA London 1980
- (16) Doller, C.M. Quantitative History and Archives. 9th IC, ICA London 1980
- (17) Roper, M. The Academic Use of Archives. 9th IC, ICA London 1980
- (18) Kagombe, M. Oral History and Archives. 9th IC, ICA London 1980
- (19) Principe, L. Everymans and Archives. 9th IC, ICA London 1980
- Berche, C. The Populer Use of Archives. 9th IC, ICA London 1980
- (20) The Uses of Archives and the ICA, its Achievements and its Future. 9th IC, ICA London 1980
- (21) The Challenge to Archives: Growing Responsibilities and Limited Resources. 10th International Congress ICA Bonn 1984
- (22) 安澤秀一「イギリスの地方文書館とアーキヴァスト養成制度」地方史研究三〇—二昭和五四、「ブラタック・アフリカ諸国におけるアーキヴァスト養成課程」史料館研究紀要一五昭和五八、「イギリスの文書館法とアーキヴァスト協会」地方史研究三四—二昭和五九

付録I ユネスコPGI・RAM P関係文献目録抄一九七八―一九八三

一九八三年にユネスコPGIは、“Writings on Archives published by and with the assistance of UNESCO: a RAMP Study” by Frank B. Evansを刊行した。一九五二年から一九八二年迄の文献目録であり、二八二点が収録されている。PGIの直接刊行物のほか、ICA機関誌Archivum, UNESCO Bulletin for Libraries, Museums and Monuments などの UNESCO Journal of Information Science, Librarianship and Archives Administration 略称 UJISLAA などを掲載されている論文もあつている。この付録では、一九七八年以降の文献一〇一点と、一九八四年までに刊行されてPGIより安澤に送付されてきた文献一七点を加えた。なお安澤の手元にある文献にはフステリックを付しておいた。PGI・RAM Pの御好意に感謝するものである。PGI刊行物はユネスコに申込みれば、残部のある分は船便で送付してくれる。アドレスは下記の通りである。

UNESCO PGI, 7, place de Fontenoy, 75700 Paris, France

1978

182. * 182. *Archivum*. Vol. XXV. Basic International Bibliography of Archive Administration. München, 1978. 250 p.
183. Aubrac, Raymond. *République socialiste du Viet-Nam: Situation actuelle des infrastructures d'information* (FMR/BEP/PGI/78/140). Paris, Unesco, 1978. 57 p.
184. Cortés Alonso, Vicenta. *Costa Rica: Sistema nacional de archivos* (FMR/BEP/PGI/78/167). Paris, Unesco, 1978. 81 p.
185. Dalmas, Bruno. *Maroc: La Formation des archivistes. Propositions pour un programme d'enseignement à l'école des sciences de l'information de Rabat* (ESI) (FMR/CC/DBA/78/204 UNNDP) Paris, Unesco, 1978. 60 p.

186. Duchein, Michel. *Republique Fédérative du Brésil : Organisation des archives* (FMR/BEP/PGI/78/165) Paris, Unesco, 1978. 33 p.
187. *Guide to the Sources of the History of Africa, South of the Sahara, in the Netherlands*. München, Verlag Dokumentation Saur KG, 1978. 241 p.
188. * Harrison, K.G. *Mauritius : Libraries, Documentation and Archives Services* (FMR/BEP/PGI/78/121) Paris, Unesco, 1978. 51 p.
189. Harrison. *Republic of the Seychelles : Libraries, Documentation and Archives Services* (FMR/BEP/PGI/78/110.) Paris, Unesco, 1978. 56 p.
190. * Kathpalia, Yash P. *Conservation and Restoration of Archives : A Survey of Facilities* (PGI/78/MS/14) Paris, Unesco, 1978. 94 p.
191. Ketelaar, Eric. *Towards International Standardization of Statistics on Archival Institutions and Records Centres, Report* (PGI/78/WS/16) Paris, Unesco, 1978. 35 p.
192. Maclean, Ian. *Kenya : Records Management* (FMR/BEP/PGI/78/128) Paris, Unesco, 1978. 57 p.
193. Poole, Frazier G. *Republic of Sri Lanka : A programme for preserving the vital records of Sri Lanka* (FMR/BEP/PGI/78/155) Paris, Unesco, 1978. 23 p.
194. Staes, Jacques. *Burundi : Développement des services Archives nationales* (FMR/BEP/PGI/78/104). Paris, Unesco, 1978. 33 p.
195. Tanodi, Aurelio Z. *Ecuador : Reorganización de Archivos del Ministerio de Relaciones Exteriores* (FMR/BEP/PGI/78/131). Paris, Unesco, 1978. 66 p.
196. Unesco. General Conference, Twentieth Session, Paris, 1978. *Report of the Director-General on the Study regarding Problems involved in the Transfer of Documents from Archives in the territory of Certain Countries to the Country of their Origin* (20 C/102, 26 August 1978) Paris, 1978. 6 p.
Available also in French

197. * Unesco. *Nepal : Archives Preservation. Project Findings and Recommendations* (FMR/PGI/78/232) (UNDP)) Paris, Unesco, 1978. 35 p.
198. Unesco. Office of Statistics. *International Pilot Survey on Archival Institutions and Records Centres Statistics*, 1978 (STC/Q/788) Paris, Unesco, 1978. 10 p. Available also in French.
199. Unesco. Second Symposium of Editors of Documentation, Library and Archives Journals. Berlin, 4-7 September 1978, *Summary Report* (PGI/78/802/3) Paris, Unesco, 1978. 14 p.
- 1979
200. * Akita, J.M. *Uganda : Development of the National Archives and the National Documentation Centre* (FMR/BEP/PGI/79/105) Paris, Unesco, 1979. 49 p.
201. * *Archivum*. Vol. XXVI. Proceedings of the 8th International Congress on Archives, Washington, 1976. München, 1979. 207 p.
202. Barbachano, Pedro. *Bolivia : Conservación y restauración de materiales de archivos y bibliotecas* (FMR/PGI/79/162) Paris, Unesco, 1979. 17 P.
203. Bell, Lionel et Bernard Faye. *La Conception des bâtiments d'archives en pays tropical* (Documentation, bibliothèques et archives : études et recherches, No. 9) Paris, Unesco, 1979. 190 p. Available also in Spanish
204. Bousso, Amadou A. et S. Willemijn. *Haiti : Formation de spécialistes des Sciences de l'Information* (FMR/PGI/79/157) Paris, Unesco, 1979. 36 p.
205. Carbone, Salvatore. *Liban : Formation archivistique à la Faculté d'Information et de Documentation de l'Université Libanaise et organisation du dépôt de prêt-à-lire* (FMR/PGI/79/172) Paris, Unesco 1979. 33 p.
206. Contini-Allemand, Vitoria. *Turquie : Atelier de restauration à la Bibliothèque centrale de l'Université d'Istanbul* (FMR/PGI/79/178). Paris, Unesco, 1979. 20 p.

207. Cook, Michael. *The Education and Training of Archivists—Status Report of Archival Training Programmes and Assessment of Manpower Needs* (PGI/79/CONF. 604/COL. 2) Paris, Unesco, 1979. 71 p. Available also in French
208. Delmas, Bruno. *Haiti : Etat des systèmes d'information des pouvoirs publics et propositions de réorganisation et de développement* (FMR/PGI/79/220) (UNDP), Paris, Unesco, 1979. 103 p.
209. Delmas. *The Training of Archivists—Analysis of the Study Programmes of Different Countries and Thoughts on the Possibilities of Harmonization* (PGI/79/CONF. 604/COL. 1) Paris, Unesco, 1979. 75 p. Available in French
- 210.* Evans, Frank B. *History of Archives Administration : A Select Bibliography* (*Documentation, Libraries and Archives : Bibliographies and Reference Works*, No. 6) Paris, Unesco, 1979. 205 p.
211. Fontvieille, Jean R. *Gabon : Création d'une infrastructure nationale des archives, des bibliothèques et de la documentation* (FMR/PGI/79/308) Paris, Unesco, 1979. 103 p.
212. Grolier, Eric de. *The Organization of Information Systems for Government and Public Administration* (*Documentation, Libraries and Archives : Studies and Research*, No. 8) Paris, Unesco, 1979. 163 p. Available also in French
213. Himly, François. *République togolaise : Réorganisation et développement des archives* (FMR/BEP/PGI/79/107) Paris, Unesco, 1979. 98 p.
214. Lafont, Suzanne. *République populaire du Congo : La Formation de documentalistes, de bibliothécaires et d'archivistes* (FMR/PGI/79/153). Paris, Unesco, 1979. 26 p.
215. Manning, Raymond, Gilberte Pérotin and Sven Welanders, comps. and eds. *Guide to the Archives of International Organizations*. Part I. The United Nations System. Preliminary version (PGI/79/WS/7). Paris, 1979. 301 p.
216. Raghavan, V. *Socialist Republic of the Union of Burma : Preservation of Palm-Leaf and Parbatik*

- Manuscripts and Plan for a Compilation of a Union Catalogue of Manuscripts* (FMR/PGI/79/144). Paris, Unesco, 1979. 19 p.
217. * Rieger, Morris. 'Modern Records Retirement and Appraisal Practice,' *Unesco Journal of Information Science, Librarianship and Archives Administration* (hereafter cited as *UJISLAA*), Vol. 1, No. 3, 1979. pp. 200-9
218. Roper, Michael. *Republic of Malawi: Development of the National Archives*. (FMR/PGI/79/150) Paris, Unesco, 1979. 51 p.
219. * Sane, Ousmane. 'Archives Administration in the French-speaking Countries of Black Africa: EBAD's curriculum,' *UJISLAA*, Vol. 1, No. 4, 1979. pp. 260-63
220. Saunders, D. Gail. *St. Kitts News: Archival Organization* (FMR/PGI/79/196) Paris, Unesco, 1979. 16 p.
221. Sinnette, Elinor Desverney. *Kenya: National Training Project in Library, Archival and Information Studies* (FMR/PGI/79/147) Paris, Unesco, 1979. 24 p.
222. * Tanodi, Aureio Z. 'Archival Training in Latin America,' *UJISLAA*, Vol. 1 No. 2, 1979. pp. 112-123
223. Unesco, General Information Programme. Expert Consultation on the Development of a Records and Archives Management Programme (RAMP) Within the Framework of the General Information Programme, 14-16 May 1979. Paris, *Working Document* (PGI/79/ES/1). Paris, Unesco, 1979. 19 p. Available also in French
224. * Unesco. General Information Programme. Expert Consultation on the Development of a Records and Archives Management Programme (RAMP) Within the Framework of the General Information Programme, 14-16 May, 1979. Paris. *Final Report* (PGI/79/WS/II). Paris, Unesco, 1979. 36 p. Available also in French.
225. Unesco, Office of Statistics. *Results of the International Pilot Survey on Archival Institutions and*

Records Centres Statistics, 1978-1979 (ST/79/WS/16). Paris, Unesco, 1979. 33 p.

1980

- 226.* Arad, Ar. 'Automated Registration and Indexing: the Israel State Archives,' *IJISLAA*, Vol. II, No. 2, 1980. pp. 123-132
- 227.* *Archivum*, Vol. XXVII. Labour and Trade Union Archives. München, 1980. 190 p.
- 228.* *Archivum*, Special Vol. No.2. Proceedings of the Second Caribbean Archives Conference (Guadeloupe and Martinique, 27-31 October 1975). München, 1980. 160 p.
229. Blaquière, Henri. *Maroc: Enseignement de l'archivistique à l'Ecole des Sciences de l'information* (FMR/PGI/OPS/80/230 (UNDP). Paris, Unesco, 1980. 22 p.
230. Borsá, Iván. *Turkey: Development and Modernization of the Basbakanlik Arsiu* (FMR/PGI/80/171). Paris. Unesco, 1980. 12 p.
- 231.* Cook, Michael. 'Professional Training of Archivists: Problems of Modernization and Harmonization,' *IJISLAA*, Vol. II, No. 3, 1980. pp. 150-158.
- 232.* Ede, Jeffrey R. *Iraq: Construction of a National Archives Building* (FMR/PGI/80/124). Paris, Unesco, 1980. 41 p.
233. Hanson, C. Rise. *The Danish National Archives: Guide to the Sources of the History of North Africa, Asia and Oceania in Denmark*. Copenhagen: Danish National Archives. 1980. 842 p.
- 234.* Keene, James A. and D.L. Thomas. *Sultanate of Oman: Conservation of ancient manuscripts* (FMR/PGI/80/109) Paris, Unesco. 1980. 27 p.
235. Ketelaar, Eric. *Republic of Indonesia: Archival Training* (FMR/PGI/80/154) Paris, Unesco, 1980. 28 p.
- 236.* Roper, Michael. *Democratic Republic of the Sudan: Establishment of a Technical Training Centre in Archival Restoration and Reprography* (FMR/PGI/80/160). Paris, Unesco, 1980. 31 p.

237. Unesco. Division of the General Information Programme. Meeting of Experts on the Harmonization of Archival Training Programmes, 26-30 November, Paris, 1979. *Final Report* (PGI/79/CONF. 604/COL.7) Paris, Unesco, 1980. 18 p. Available also in French
- 1981
238. * Black, Clinton. *Grenada: Archival Development* (FMR/PGI/81/182) Paris, Unesco, 1981. 22 p.
239. Borsá, Iván. *Feasibility Study on the Creation of an Internationally Financed and Managed Microfilm Assistance Fund to Facilitate the Solution of Problems involved in the International Transfer of Archives and in Obtaining Access to Sources of National History Located in Foreign Archives* (PGI/81/WS/7). Paris, Unesco, 1981. 31 p. Available also in Arabic, French, Russian and Spanish.
240. Cook, Michael. *Caribbean Region: Professional training needs for archivists in the Caribbeas Region* (FMR/PGI/TSU/81/197) Paris, Unesco, 1981. 24 p.
241. Cortés Alonso, Vicenta. *Perú: Sistema Nacional de Archivos y Gestión de Documentos: RAMP Proyecto Piloto* (FMR/PGI/81/110). Paris, Unesco, 1981. 56 p.
242. * Crespo, Carmen. *Republic of Argentina: Development of a Regional Demonstration and Training Centre at the School for Archivists, University of Cordoba* (FMR/PGI/81/116E) Paris, Unesco, 1981. 28 p. Available also in Spanish.
243. * Evans, Frank B. *The Republic of Cyprus: Development of an archival and records management programme* (FMR/PGI/81/166). Paris, Unesco, 1981. 64 p.
244. Hendricks, Klaus B. *Republic of Venezuela: The Photographic Archives at the National Library* (FMR/PGI/81/171). Paris, Unesco, 1981. 132 p.
245. * Hull, Felix. *The Use of Sampling Techniques in the Retention of Records: A RAMP study with Guidelines* (PGI/81/WS/26). Paris, Unesco, 1981. 64 p. Available also in French and Spanish.

246. Keeskeméti, Charles and Evert Van Laar. *Model Bilateral and Multilateral Agreements and Conventions Concerning the Transfer of Archives* (PGI/81/WS/3). Paris, Unesco, 1981. 34 p. Available also in Arabic, French, Russian and Spanish
247. * Pieyns, Jean. *Feasibility Study of a Data Base on National Historical Sources in Foreign Repositories* (PGI/81/WS/24). Paris, Unesco, 1981. Available also in French
248. Reicher, D. et Henri Blaquière. *La République du Sénégal : Deuxième cycle d'études à l'école de bibliothécaires, archivistes et documentalistes de l'université de Dakar* (EBAD) (FMR/PGI/81/163) Paris, Unesco, 1981. 27 p.
249. * Rhoads, James B. 'Standardization for Archives', *UJISLAA*, Vol. III, No. 3, 1981. pp 165-9
250. * Ricks, Artel. *Republic of the Philippines : RAMP pilot project for the establishment of a regional archives and records centre* (FMR/PGI/81/158) Paris, Unesco, 1981. 49 p.
251. Roads, Christopher. *Republic of the Philippines : Audiovisual Archives in the Context of South-East Asia* (FMR/COR/DO5/81/303). Paris, Unesco, 1981. 22 p.
252. Serrano, Andrés. *Nicaragua : Patrimonio bibliográfico y documental* (FMR/PGI/81/115). Paris, Unesco, 1981. 19 p.
253. Silva, G.P.S.H. de. *A Survey of Archives and Manuscripts Relating to Sri Lanka and Located in Major London Repositories* (PGI/81/WS/4). Paris, Unesco, 1981. 100 p.
254. *Sources de q'Histoire de l'Asie et de l'Océanie dans les Archives et Bibliothèques françaises. 1ère partie : Archives.* München, K.G. Saur Verlag KG, 1981. 593 p. Vol. 2 II : *Sources de l'Histoire de l'Asie et de l'Océanie dans les Archives et Bibliothèques françaises. 2ème partie : Bibliothèque nationale.* München, K.G. Saur Verlag KG, 1981. 315 p.
255. *Sources of the History of North Africa, Asia and Oceania in Finland, Norway and Sweden.* München, K.G. Saur Verlag KG, 1981. 233 p.

256. Tanodi, Aurelio Z. 'Latin American Archives Periodicals', *IJISLAA*, Vol. III, No. 2, 1981. pp 90-9
257. * Tocathian, Jacques. 'Information for Development: The Role of Unesco's General Information Programme', *Unesco Journal of Information Science, Librarianship and Archives Administration*, Vol. III, No. 3, 1981. pp.146-58
258. Vaughan, A. *Tunisie: La Formation de documentalistes, de bibliothécaires et d'archivistes à l'Institut de presse et des sciences de l'information (IPSI)* (FMR/PGI/81/115). Paris, Unesco, 1981. 49 p.
259. * Unesco. *Africa: Regional Training Centre for Archivists...Accra: Project Findings and Recommendations* (FMR/PGI/OPS/81/223 (UNDP)) Paris, Unesco, 1981. 43 p.
260. * Weill, Georges. *The Admissibility of Microforms as Evidence: A RAMP Study* (PGI/81/WS/25). Paris, Unesco, 1981. 84 p. Available also in French and Spanish.
261. White, Brenda. *Archives Journals: A Study of their Coverage by Primary and Secondary Sources (RAMP Studies and Guidelines)* (PGI/81/WS/10). Paris, Unesco, 1981. 72 p. Available also in French
- 1982
262. * *Archivum*, Vol. XXVIII. Archival Legislation, 1970-1980. München, 1982. 447 p.
263. 1* Cook, Michael. 'An International Standard for the Training of Archivists and Records Managers', *IJISLAA*, Vol. IV, No. 2 1982. pp 114-122
263. 2* Cook. *Guidelines for Curriculum Development in Records Management and the Administrations of Modern Archives: A RAMP Study* (PGI/82/WS/16). Paris, Unesco, 1982. 74 p.
264. * Evans, Frank B. 'An Archival Perspective', *IJISLAA*, Vol. IV, No. 2, 1982. pp. 78-80
265. * Evans. *Malaysia: Development of the Archives and Records Management Programme* (FMR/PGI/82/110). Paris, Unesco, 1982. 54 p.
266. * Evans. 'Unesco and Archives Development', *IJISLAA*, Vol. IX, No. 3, 1982. pp. 159-176.

267. Faye, Bernard. *Burundi : Construction d'un bâtiment pour les archives nationales* (FMR/PGI/OPS/82/109). Paris, Unesco, 1982. 63 p.
268. Faye. *Guinée : Construction d'un complexe documentaire archives nationales ... Bibliothèque nationale* (FMR/PGI/82/119). Paris, Unesco, 1982. 44 p.
269. * Faye. 'The Design of Archives Buildings,' *IJISLAA*, Vol. IV, No. 2, 1982. pp. 88-93
270. * Kathpalia, Yash P. 'Conservation and Preservation of Archives,' *IJISLAA*, Vol. IV, No. 2, 1982. pp. 94-100
271. * Mabbs, Alfred W. *Ethiopia : The National Archives* (FMR/PGI/82/115). Paris Unesco, 1982. 23 p.
272. * Mihailov, O.A., T.N. Musatova and F.A. Gedrovic, 'Audio-visual Archives in the USSR,' *IJISLAA*, Vol. IV, No. 2, 1982. pp. 101-106
273. * Rhoads, James B. *The Applicability of UNISIST Guidelines and ISO International Standards to Archives Administration and Records Management : A RAMP Study* (PGI/82/WS/4) Paris, Unesco, 1982. 95 p. Available also in French and Spanish.
274. * Ricks, Artel. *Philippines : RAMP Pilot Project for the Establishment of a Regional Archives and Records Centre* (Report No. 2) (FMR/PGI/82/161) Paris, Unesco, 1982. 24 p.
275. * Roper, Michael. 'New Information Technology and Archives,' *IJISLAA*, Vol. IV, No. 2, 1982. pp. 107-113
276. * Silva, G.P.S.H. de. 'Archives in Developing Countries. Sri Lanka, A Case Study within Asia,' *IJISLAA*, Vol. IV, No. 2, 1982. pp. 81-87
277. * Tirmizi, S.A.I. *Guide to Records Relating to Science and Technology in the National Archives of India : A RAMP Study* (PGI/82/WS *12). Paris, Unesco, 1982. 84 p.
278. * Unesco. Division of the General Information Programme. Second Expert Consultation on RAMP (RAMP II) Berlin (West), 9-11 June 1982. *Working Document* (PGI/82/WS/6) Paris, Unesco, 1982.

- 31 p.
279. * Unesco. Division of the General Information Programme. Second Expert Consultation on RAMP (RAMP II) Berlin (West), 9-11 June 1982. *Final Report* (PGI/82/WS/24). Paris, Unesco, 1982. 54 p. Available also in French and Spanish.
280. Unesco. General Information Programme. *Survey of Archival and Records Management Systems and Services 1982* (PGI/82/WS/3) Paris, Unesco, 1982. Available also in French
281. * Walford, John. *Kenya: Review of the Kenya National Archives* (FMR/PGI/82/147). Paris, Unesco, 1982. 45 p.
282. * White, Brenda. *Directory of Audio-Visual Materials for Use in Records Management and Archives Administration Training* (PGI/82/WS/8). Paris, Unesco, 1982. 71 p.
- 1983
283. * Rhodes, James B. The Role of Archives and Records Management in National Information Systems (PGI-83/WS/21) Paris, UNESCO, 1983. 56 p.
284. * Aronso, Vicenta C. PERU: Contribution to the development of information infrastructures, National Archives System and Records Management (FMR/PGI/81/110E) Paris, UNESCO, 1982. 57 p.
285. * Evans, Frank B. Writings on Archives published by and with the Assistance of UNESCO (PGI-83/WS/5) Paris, UNESCO, 1983. 33 p.
286. * Evans, F.B. and Ketelaar, E. A Guide for surveying Archival and Records Management Systems and Services (PGI-83/WS/6) Paris, UNESCO, 1983. 30 p.
287. * Hildesheimer, F. Guidelines for the Preparation of General Guides to National Archives (PGI-83/WS/9) Paris, UNESCO, 1983. 67 p.
288. * Kula, Sam. The Archival Appraisal of Moving Image (PGI-83/WS/18) Paris, UNESCO, 1983. 130 p.
289. * Moideen, P.S.M. A Survey of Archives Relating to India and Located in Major Repositories in

- France and Great Britain (PGI-83/WS/19) Paris, UNESCO, 1983. 13 p. + appendix 56 p.
290. * Duchein, Michel. Obstacles to the Access, Use and Transaction of Information from Archives (PGI-83/WS/20) Paris, UNESCO, 1983. 80 p.
291. * Lancaster, F.W. and Smith, L.C. Compatibility Issues affecting Information Systems and Services (PGI-83/WS/23) Paris, UNESCO, 1983. 209 p.
292. * Stark, Marie C. Development of Records Management and Archives Services within United Nations Agencies (PGI-83/WS/26) Paris, UNESCO 1983. 215 p.
- 1984
293. * Hendriks, Klaus B. The Preservation and Restoration of Photographic Materials in Archives and Libraries (PGI-84/WS/1) Paris, UNESCO, 1984. 121 p.
294. * Kathpalia, Y.P. A Model Curriculum for the Training of Specialists in Document Preservation and Restoration: (PGI-84/WS/2) Paris, UNESCO, 1984. 27 p.
295. * Taylor, Hugh A. Archival Services and the Concept of the User: (PGI-84/WS/5) Paris UNESCO 1984. 98 p.
296. * Seton, Rosemary E. The Preservation and Administration of Private Archives: (PGI-84/WS/6) Paris, UNESCO, 1984. 65 p.
297. * Wimalaratne, K.D.G. Scientific and Technological Information in Transactional Files in Government Records and Archives: (PGI-84/WS/7) Paris, UNESCO, 1984. 47 p.
298. * Keen, J.A. and Roper, M. Planning, Equipping and Staffing a Document Repographic Service: (PGI-84/WS/8) Paris, UNESCO, 1984. 84 p.
299. * Jubb, M. Guide to the Records Relating to Science and Technology in the British Public Record Office: (PGI-84/WS/9) Paris, UNESCO, 1984. 309 p.

付録II 史料館＝文書館学基本文献目録 (F・エヴァンズ氏作成 1983)

この目録はフランク・エヴァンズ氏が安澤の質問に応じて送付してくれたものである。エヴァンズ氏には下記の編者がある。雑誌論文をも含めた本格的な検索には下記を見らいたい。転載を許してくれたエヴァンズ氏の御好意に感謝するものである。

Evans, Frank. The History of Archives Administration : a Select Bibliography, UNESCO, Paris, 1979

United Kingdom

[Archives and Management]

1. Cook, Michael. Archives Administration, a Manual for Intermediate and Smaller Organizations and for Local Government, William Dawson and Sons, Folkstone, England, 1977
2. A Guide for Departmental Administration, 3rd edition, Public Record Office, London, 1971
3. Jenkinson, Hilary. A Manual of Archive Administration, ed. by Roger H. Ellis, Lund Humphries, rev. 2nd ed. 1965
4. Emmison, F. Archives and Local History, Rowman, Chichester, Phillmore, 1974
5. Anderson, John. A Handbook for Archivists, Havelock, Vic. Clinalder Press, 1967
6. Principles governing the Elimination of Ephemeral or Unimportant Documents in Public/Private Archives, Public Record Office, London
7. Ranger, Felicity. Prisca Munimenta : Studies in Archival and Administrative History presented to

Dr. Hollaender, London, Univ. Press of London, 1973

8. Redstone, L.J. (ed.) and Steer, F. *Local Records: their Nature and Care*, G. Bell, London, 1953
- [Conservation and Reprography]

9. Cokerrell, S.M. *The Repairing of Books*, Sheppard Press, London, 1958
10. Langweel, W.H. *The Conservation of Books and Documents*, Isaac Pitman, London, 1957
11. Michell, C.A. and Hepworth, T.C. *Inks, their Composition and Manufacture*: 4th ed., C. Griffin and Co. London, 1937
12. Plenderleith, H.J. and Werner, A.E. *The Conservation of Antiquities and Works of Art: Treatment, Repair and Restoration*, London, Oxford Univ. Press, 1971, 2nd ed.
13. Thompson, Garry, (ed.) *Recent Advances in Conservation*, Butterworth and Co. London, 1963
14. Barrett, W.J.M.I.R.T. *35 mm-Microfilming for Drawing Offices*, Focal Press, London
15. CRIX, F.C. *ACIS Reprographic Management Handbook*, Business Books Ltd., Mercury House, Waterloo Road, London
16. Cook, W.A. *Electrostatics in Reprography*, Focal Press, London, 1970
17. Mason, Donald. *Document Reproduction in Libraries*, Association of Assistant Librarians. London, 1968
18. New, Peter, G. *Reprography for Librarians*, Clive Bingley Ltd., London, 1965
19. Verry, H.R. *Document Copying and Reproduction Processes*, Fountain Press Ltd., London, 1958

21. Verry, H.R. and Whight, Gordon H. Microcopying Methods, Focal Press, London

[Library archives and Information Systems]

22. Ashworth, W. and Batten, W.E. Handbook of Special Librarianship and Information Work, 4th ed. 1975, London, Aslib

23. Hanson, Christopher Warton. Introduction to Science Information Work, 1971, London Aslib

24. British Standards Institution. Recommendation for the Storage of Microfilms 1153 : 1955

25. British Standards Institution. Recommendations for the Storage of Microfilms : 1955

Paris

1. Perotin, Y. (ed.) A Manual of Tropical Archivalogy, Mourtou and Co. Paris and The Hague, 1966

International Council on Archives

1. Davis, J. A Study of Basic Standards and Methods in Preservation and Restoration Workshops Applicable to Developing Countries, ICA, 1973, Brussels

2. Duchein, Michel. Archives Building and Equipment, ICA, 1977

Malaysia

1. National Archives of Malaysia. Records Management Manual : a Guide for Departmental Records

Officers, National Archives of Malaysia, Petaling, Jaya, 1972

Australia

1. MacMillian, David S. (ed.) Records Management : Proceedings at Short Course in Records Management, Sydney, 1957

Canada

1. Public Archives : Records Management Branch, Records Organization and Operations, 1974

UNESCO = Paris

[Archives and Records Management]

1. Carbone, Salvatore. and Guize, Raoul. Draft Model Law on Archives, Description and Text, UNESCO Paris 1972
2. Mabb, A.W. and Duboso G. The Organization of Intermediate Records Storage, UNESCO Paris 1974
3. Olier, J.H. and Delmas, Bruno. Planning National Infrastructures for Documentation, Libraries and Archives, UNESCO Paris 1975
4. Verhoeven, F.R.J. The Role of Archives in the Public Administration and the National Planning Policy of Developing Countries, UNESCO Paris, 1972

5. Kathparia, Y.P. Conservation and Restoration of Archive Materials, UNESCO Paris, 1974
6. Conservation of Cultural Property with Special Reference to Tropical Conditions (Museum and Manuscripts, No. 11) UNESCO Paris 1968

United State of America

[Archives and Records Management]

1. Brooks, Philips. Research in Archives: the Use of Unpublished Primary Sources, Chicago, 1969
2. Cadwaller, L.H. and Rice, S.A. Principles of Indexing and filing, H.M. Rowe, Baltimore, 1971
3. Clark, R.L. (ed.) Archives-Library Rerations, Bowker, New York, 1976
4. Collison, R.L. Commercial and Industrial Records Storage, J. de Graff, New York, 1969
5. Dukett, K.W. Modern Manuscripts: a Practical Manual for their Management, Care and Use. Nashville, 1975
6. Evans, Frank B. The Administration of Modern Archives: a select Bibliographic Guide, National Archives and Records Science, General Services Administration, Washington, D.C. 1970
7. Kahn, G. et al. Filing Systems and Record Management, 3rd. ed. New York, 1971
8. Leahy, E.J. and Cameron, C.A. Modern Records Management: a Basic Guide to Records Control, Filing and Information Retrieval, Now York, 1975
9. Maecke, W.O. and Robec, M.F. Information and Records Management, Glense Press 1974

10. Menzenska, M.J. Archives and other Special Collections: a Library Staff Handbook, New York, 1973
 11. Michell, Thornton W. Norton on Archives. The Writings of Margaret Cross, Norton on Archival and Records Management, Illinois, 1975, Carbondale
 12. Muller, S. Feith, J.A. and Fruin, R. Manual for the Arrangement and Description of Archives, Trans. from the Dutch, New York. Wilson, 1968
 13. Federal Record Centres, National Archives of the U.S.A., 1967
 14. Place, I. and Popham, E.L. Filing and Records Management, New Jersey, 1966
 15. Podoll, Darryl and Waker, Waker. Archives Procedural Manual, Washington University school of Medicine Library, St. Louis, 1978, 2nd ed.
 16. Posner, Ernst. Archives and the Public Interest: Selected Essays ed. by K.W. Mundon, Public Affairs Press, Washington D.C. 1967
 17. Schellenberg, Theodore R. Management of Archives, Columbia Univ. Press, New York, 1965
 18. Schellenberg, T.R. Modern Archives: Principles and Techniques, Univ. of Chicago Press, Midway Reprint Ser. 1975
- [Conservation and Reprography]
19. Cunha, G.M. Conservation of Library Materials: a Manual and Bibliography on the Care, Repair and Restoration of Library Materials, Screecrow Press, Metuchen, New York, 1971, 2 Vol
 20. Greathouse, A.G. and Wessel, C.J. Deterioration of Materials Causes and Preservative Techniques, N.

- Y. Reinhold, New York, 1954
21. Hunter, D. Paper Making: the History and Technique of an Ancient Craft, A. Knopf, New York, 1978
 22. Lydenberg, H.M. and Archer, J. The care and Repair of Books, revised ed., by J. Alder, R.R. Bowker and Co. 1969
 23. Minogue, A. The Repair and Preservation of Records, U.S. National Archives, Bulletin No. 5, 1943
 24. Veaner, A.B. The Evaluation of Micropublication: a Handbook for Librarians, American Library Association, Chicago, 1971
 25. American National Standard Institute. 10018-for several ANS on the Storage and Preservation of Films and Microfilms
 26. Ballou, H.W. Guide to Microproduction Equipment, National Microfilm Association, 8728, Colesville Rd. Silver Spring, MD 20910
 27. Hawken, W.E. Copying Methods Manual, Library Technology Project Pub. No. 11, Chicago, International Microfilm Sources Book 1978-1979. Microfilm Publishing Inc.
 29. Nelson, C.E. Microfilm Technology, Engineering and related fields: McGraw Hill Inc., 1965
 30. Offenhauser, W.H. Microrecording: Industrial and Library Applications, Inter Science Publishers, Inc., 1956

[Library, Archives and Information System]

31. Borko, H. Bernier, C.L. Abstracting Concepts and Methods, Library and Information Science Ser. U.S.A. 1975
 32. Burch, J.G., Stratev, F.R. Information Systems, Theory and Practice, 2nd ed. 1979
 33. Debsons, A. (ed.) Information Science, Search for Identity, M. Dekker, New York, 1974
 34. Katz, W.A. Introduction to Reference Work, 2 vol., 2nd ed., McGraw-Hill, 1974
- [Conservation-Methods by Barrow, W.J.]
35. Procedures and Equipments Used in the Barrow Method of restoring Manuscripts and Documents, Richmond, 1952
 36. Deterioration of Book Stocks: Causes and Remedies, 1959
 37. The Manufactures and Testing of Durable Book Papers, 1960
 38. Permanent Durable Paper, 1960
 39. Permanence and Durability of the Book. 5 Vols. 1963-1967
- vol. I Two year research programme, 1963 ;
- vol. II Test data of naturally aged paper, 1964 ;
- vol. III Spray deacidification, 1964 ;
- vol. IV Polyvinyl Acetates (PVA) adhesives for Use in Library Book Bindings, 1965 ;
- vol. V Strength and other characteristics of book papers, 1800-1899, 1967 ;

